

令和3年度

社会調査実習報告書

第 10 号

淑徳大学

コミュニティ政策学部

はしがき

本報告書は、淑徳大学コミュニティ政策学部の「社会調査実習」を履修した学生の調査研究の成果である。

コミュニティ政策学部では、専門科目（社会学分野）の教育目標に「社会事象や社会に関連する諸事実を明らかにするために、データの収集から分析にいたるまでの基礎的な事柄を理論と方法の両面から理解する」ことを据え、コミュニティ研究の方法のひとつである社会調査を学生が体系的に学習するためのカリキュラムを組んでいる。1年次前期に「社会調査論」、1年次後期に「社会調査法」、2・3年前期に「統計解析法」と「社会統計学」、2・3年次後期に「量的解析法」を履修する。これらの計5科目の単位を修得済みであることが、3・4年次前期開講の「社会調査実習」の履修条件となっている。

「社会調査実習」は、それまでの各社会調査関連科目での学びの集大成として、研究テーマの設定から、テーマに関わる仮説および分析方法の検討、調査票の作成、実査、データの集計と解析、そして報告書による成果の公表という社会調査の一連の過程に、学生が主体となって取り組むものである。

2021年度の担当教員は山本功と青柳涼子、社会調査助手は渡辺由希であり、履修学生は5名であった。5名は「社会調査実習」の単位修得をもって「社会調査士資格」取得に必要な科目をすべて履修済みとなる。

さて、2020年から本格化した全世界でのコロナ禍は、私たちの生活を一変させた。職場や学校で、ふだんあたりまえのように出会っていた人たちと対面で話せる機会が少なくなった。その代わりにオンラインで人とコミュニケーションすることが多くなった。

この報告書の調査研究課題は、「公的相談窓口の認知・信頼・相談意向」である。コロナ禍にあって、対面で人と——さらには家族、親族とも——会って何かを相談する機会が減少したことが想像される。身近な他者に相談できなければ、公的機関の相談窓口が頼りの綱となるであろう。しかしながら、何らかの被害にあった人が公的機関にみな相談するかといえば、そうでもない。そもそも、そうした相談窓口がどれほど知られているのかというレベルから調べる必要がある。

調査の設計、設問項目の選定にあたっては、千葉県環境生活部くらし安全推進課防犯対策室及び千葉県警察本部犯罪被害者支援室からリクエストとアドバイスを頂戴した。ただし、本調査の責任はすべてこの授業の担当教員にあることを付言しておく。

本学コミュニティ政策学部の社会調査実習として、参加学生が社会調査の技法を身につけると同時に、その成果が社会問題の解決・軽減にいくばくかの貢献ができれば、望外の喜びである。

最後に、本調査にご助言・ご協力いただいた千葉県・千葉県警察の担当者をはじめ、関係各機関に御礼申し上げます。

淑徳大学コミュニティ政策学部
教授 山本 功
准教授 青柳涼子

目 次

はしがき	山本 功・青柳涼子	i
第1章 調査概要	山本 功	1
第2章 公的相談窓口の認知（1）：消費者ホットライン(188)を中心に	手崎 亮佑	5
第3章 公的相談窓口の認知（2）：「どれも知らない」という回答と認知窓口数の分析	奈良澤 瑤美	10
第4章 公的機関・職業への信頼：市町村役場への信頼を中心に	本吉 亮太	14
第5章 公的機関・専門職への相談意向	山崎 幹太	20
第6章 政策の必要性認識の分析	横関 文人	24
あとがき	渡辺 由希	29
付録		
基礎集計表		33
調査票		57

第1章 調査概要

山本 功

本章では、この調査の背景説明と調査概要について説明する。本調査は、「公的相談窓口の認知・信頼・相談意向」を研究課題とした社会調査である。

1. 調査研究の背景

様々な犯罪被害の予防において、自分ひとりで対処するのではなく、誰かに相談することが推奨されている。たとえば、特殊詐欺対策ではいったん電話を切り、家族や警察相談専用窓口相談することが勧められている。スティーカー被害やDV被害では、警察や男女共同参画センター、配偶者暴力相談支援センターなどが相談窓口としてあることが広報されている。消費者被害においては自治体の消費生活センターがあり、また全国統一の消費者ホットライン（188）が設置されている。すなわち、被害の事前予防、そして被害に際しての相談先として様々な公的機関等による相談窓口が国、自治体、公的団体によって設けられている。

しかしながら、被害にあった全ての人がそうした窓口相談するわけではないことは以前から指摘されていたことである。たとえば消費者庁が2020年に実施した「消費者意識基本調査」¹では、過去1年間に何らかの消費者被害にあったという人776のうち、家族や知人、消費生活センター、消費者ホットラインなどの誰か・どこかに相談又は申出をしたという人の割合は、38%であったと報告されている。すなわち、被害を相談していない人の方が多いのである。

こうしたことに鑑みると、どのような人が被害を相談し、どのような人が相談しないのかというリサーチクエスチョンがたちあがる。これが、本調査の出発点の問いであった。本調査では、仮想的に数種類の被害を提示し、さらに家族、友人、警察など複数の相談先を提示し、それぞれについての相談意向をたずねた。

だが、家族や友人といった私的関係はともかく、公的機関が設置している相談窓口があるということを知らなければ、そもそもが相談が可能であることが認知されていない可能性もある。そこで本調査では、複数の「犯罪被害や悩みごとを相談する窓口」を提示し、それぞれを知っているかどうかをたずねた。これが、公的相談窓口の認知を測定する項目である。

さらに、公的相談窓口を認知していたとしても、ただちに相談意向に結びつくというものでもないであろう。相談意向を規定するメカニズムはもっと複雑であるはずである。そのメカニズムのひとつとして、私たちは公的機関・職業に対する「信頼」に注目した。そもそもが信頼していない相手に被害を相談しはしないであろう。相談窓口の認知と、相談意向を媒介する要因のひとつとして重要な要因ではないかという仮説をたてた。さらに様々な情報接触、ソーシャルサポートといった、相談意向との関連が見込まれる変数を調査項目のなかに設定した。

以上の問題意識から、「公的相談窓口の認知・信頼・相談意向」という本調査を実施したものである。

¹ 全国の満15歳以上の日本国籍を有する者が対象。層化2段階無作為抽出、郵送配布・郵送回収（web回答併用）。標本数10,000人、有効回収数5,817。
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/research_report/survey_002/

2. 調査概要

(1) 調査対象

千葉県内に在住する 20 歳～69 歳を調査対象とした。まず、市町村別・男女別・年齢別の人口を確認するために、「千葉県年齢別・町丁字別人口令和 2 年度」を参照した。これは、千葉県が「市町村からの報告を取りまとめたもので、人口と世帯は全て令和 2 年 4 月 1 日午前零時現在のものである」とされている。当該の統計情報は以下のサイトから入手した。

千葉県庁HP：ホーム＞県政情報・統計＞統計情報＞統計情報総合案内＞統計情報の広場(千葉県の統計情報)＞分野別検索＞総合＞千葉県年齢別・町丁字別人口＞千葉県年齢別・町丁字別人口令和 2 年度＞第 2 表年齢(5 歳階級, 各歳)別, 男女別人口-県・市区町村・11 地域(令和 2 年度)

<https://www.pref.chiba.lg.jp/toukei/toukeidata/nenreibetsu/r02/r02-nenreibetu02.html>

図表 1-1 千葉県の性別・年齢層別人口（2020 年 4 月 1 日現在）

年齢	男	女	総数
20～29歳	345,406	320,045	665,451
30～39歳	386,527	356,103	742,630
40～49歳	505,557	468,099	973,656
50～59歳	432,298	403,338	835,636
60～69歳	373,722	380,061	753,783
合計	2,043,510	1,927,646	3,971,156

2,000 サンプルを回収目標数とした。2,000 サンプルを図表 1-1 の性別・年齢層別表にもとづいて割り付けたサンプル数が図表 1-2 である。

図表 1-2 回収目標数 2,000 としたサンプル割り付け数

年齢	男	女	総数
20～29歳	174	161	335
30～39歳	195	179	374
40～49歳	255	236	490
50～59歳	218	203	421
60～69歳	188	191	380
合計	1,029	971	2,000

回収サンプル数は 2208 件となった。全サンプルを分析に用いることとした。性別・年齢層別回収数は図表 1-3 のとおりである。

図表 1-3 回収サンプル数

年齢	男	女	総数
20～29歳	191	177	368
30～39歳	215	199	414
40～49歳	283	259	542
50～59歳	240	224	464
60～69歳	209	211	420
合計	1,138	1,070	2,208

回収サンプル数／割り付け数の比を、百分率で図表 1-4 に示した。

図表 1-4 回収サンプル数／割り付け数の比

年齢	男	女	総数
20～29歳	109.8%	109.8%	109.8%
30～39歳	110.4%	111.0%	110.7%
40～49歳	111.1%	109.9%	110.5%
50～59歳	110.2%	110.3%	110.3%
60～69歳	111.0%	110.2%	110.6%
合計	110.6%	110.2%	110.4%

性別・年齢層別にみると、ほとんどの性別・年齢層別類型において、割り付け数の 110%前後の回収数となっており、おおむね千葉県在住の 20～69 歳の性別・年齢層別分布に対応していることが確認できた。

(2) 調査方法

調査方法は、調査会社の登録モニタに対するインターネット調査である。実査は、株式会社マクロミルに委託した。

(3) 調査期間

2021 年 6 月 4 日（金）に配信を開始し、6 月 7 日（月）に回収を終了した。

(4) 設問項目

主な設問項目は、以下である。調査画面は本報告書巻末に資料として掲載している。

- ・ 犯罪被害にあった場合あるいは他者の被害を見聞した際の公的機関等への相談意向
- ・ 公的機関相談窓口の認知
- ・ 公的機関・職業への信頼
- ・ 政府・自治体の政策の必要性への意見
- ・ 自己効力感、一般的信頼、厳罰化志向傾向、居住地域治安評価
- ・ 情報環境（メディア接触、SNS 利用）
- ・ ソーシャル・サポート

（出典：岩佐一ほか, 2007, 「日本語版「ソーシャル・サポート尺度」の信頼性ならびに妥当性」厚生統計協会『厚生指標』54(6):26-33.）

- ・ 公正世界仮説

（出典：白井美穂, 2010, 「厳罰傾向と公正世界観の理解へ向けて【2】」『東洋大学大学院紀要』47:151-166.）

- ・ 自意識尺度

（出典：菅原健介, 1984, 「自意識尺度日本語版作成の試み」日本心理学会『心理学研究』55(3):184-188.）

- ・ 基本属性（性別、年齢、家族構成、居住形態など）

（５）付記

本調査は淑徳大学コミュニティ政策学部の授業「社会調査実習」として実施したものであり、本報告書はこの授業の履修学生によって分析された結果を報告するものである。

ただし、調査票の設計、設問項目の選定にあたっては、千葉県環境生活部くらし安全推進課防犯対策室及び千葉県警察本部犯罪被害者支援室からリクエストとアドバイスを頂戴した。この授業に参加していただき、犯罪被害者支援について講義していただき、どんな調査が必要かをいっしょに考えていただいた。本調査にご協力いただいたことに、感謝の意を記したい。ただし、本調査の責任はすべてこの授業の担当教員にあることを付言しておく。

本調査が千葉県における犯罪被害者等支援施策の一助となることがあれば望外の喜びである。

第2章 公的相談窓口の認知（1）：消費者ホットライン(188)を中心に

手崎 亮佑

本章では、最初に公的相談窓口等の認知度について分析する。ついで、消費者ホットライン 188 の認知について分析する。消費者ホットライン（消費者庁）「188」と情報環境の差についてクロス集計を行い、消費者ホットライン（消費者庁）「188」の認知との関連性を分析する。

1. 公的相談窓口の認知率について

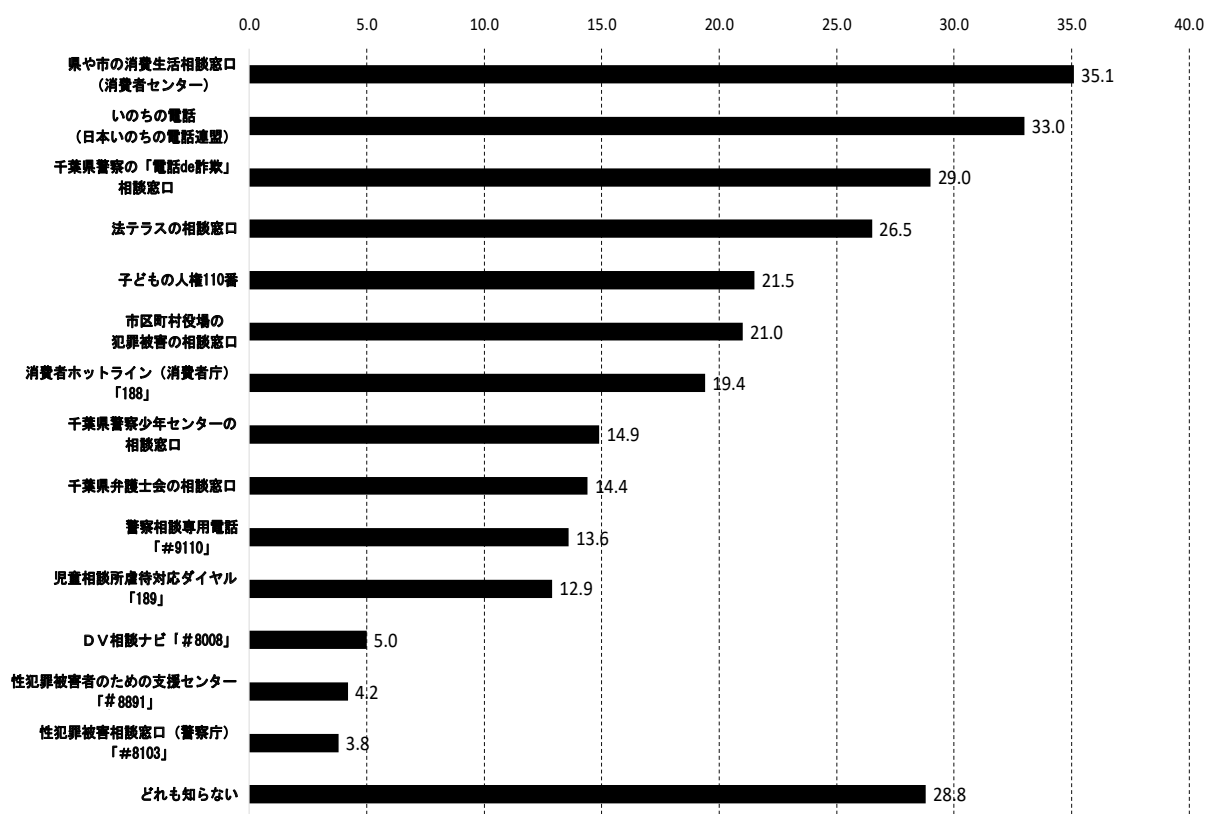
（1）公的相談窓口認知率の単純集計

調査票で様々な公的相談窓口をあげ、どのような相談窓口が認知されているのかを以下の設問で調査した。「犯罪被害や悩みごとを相談する窓口として、知っているものすべてを選んでください（いくつでも）」。

この設問では、どのような相談窓口を認知しているのかをたずねた。回答は、知っているものにチェックを入れる形式で答えていただいた。この結果が以下の図表 2-1 および図表 2-2 である。

図表 2-1 各機関の相談窓口の認知率（N=2208） (%)

県や市の消費生活相談窓口（消費者センター）	35.1
いのちの電話（日本いのちの電話連盟）	33.0
千葉県警察の「電話de詐欺」相談窓口	29.0
法テラスの相談窓口	26.5
子どもの人権110番	21.5
市区町村役場の犯罪被害の相談窓口	21.0
消費者ホットライン（消費者庁）「188」	19.4
千葉県警察少年センターの相談窓口	14.9
千葉県弁護士会の相談窓口	14.4
警察相談専用電話「#9110」	13.6
児童相談所虐待対応ダイヤル「189」	12.9
D V相談ナビ「#8008」	5.0
性犯罪被害者のための支援センター「#8891」	4.2
性犯罪被害相談窓口（警察庁）「#8103」	3.8
どれも知らない	28.8



図表 2-2 各機関の相談窓口の認知率 (N=2208)

以上の結果から、一番認知されている窓口は、県や市の消費生活相談窓口（消費者センターなど）で 35.1% の人が認知していた。最も認知されていない窓口は、性犯罪被害相談窓口「#8103」で 3.8% であった。次節で取り扱う「消費者ホットライン（188）」の認知率は 19.4% であった。

（２）千葉県「県政に関する世論調査」における認知率との比較

本調査でたずねた公的相談窓口の認知について、千葉県が 2020 年に実施した「県政に関する世論調査」（以下、「千葉県調査」とする）においても同様の調査項目があったため、ここで比較のために参照する。

千葉県が実施した調査は、千葉県全域の満 18 歳以上の 3,000 人を対象とした調査である。千葉県をブロックごとに層化し、住民基本台帳からサンプリングした層化二段階抽出法が用いられており、郵送法・オンライン調査法の併用で実施されたものである。調査時期は 2020 年 11～12 月であり、本報告書の調査時点から半年程度のずれしかない。有効回収数 1529 件、有効回収率は 50.97%。サンプルの年代別構成をみると、65 歳以上が 527 人（34.5%）と、高齢者層がやや多いサンプル構成となっている。

千葉県調査においては、以下の設問が用いられた。「あなたは、犯罪被害者等のための相談窓口を知っていますか。名前を知っているものをすべて選んでください。（○はいくつでも）」

その結果、「法律相談窓口（千葉県弁護士会・法テラス）」の認知率は 23.1% であった。本調査では法テラスと千葉県弁護士会の相談窓口を別々にたずねており、法テラス 26.5%、千葉県弁護

士会の相談窓口 14.4%となっていた。法テラスの認知率に注目すれば、ほぼ同水準であった。

千葉県調査では「市町村の犯罪被害者等に関する総合的対応窓口」という項目があり、この認知率は 6.5%であった。本調査では「市町村役場の犯罪被害相談の窓口」という項目でたずねており、この認知率は 21.0%であった本調査の方が高い数値となった。

千葉県調査では「性犯罪被害相談に係る全国共通番号 #8103(ハートさん)」という項目もあり、これの認知率は 3.2%であった。本調査では「性犯罪被害相談窓口(警察庁) #8103(ハートさん)」という項目でたずねており、認知率は 3.8%と同水準であった。

千葉県調査と本調査では調査方法が異なり、単純な比較はできないが、異なる調査手法で近接した時期に実施された調査であり、参考のために記録しておく。

(千葉県調査の出典：千葉県『令和2年度 第61回県政に関する世論調査報告書』2021年)

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kouhou/yoron/yoronchousa/r02-61/yoron61.html>

2. 消費者ホットライン 188 の認知の分析

(1) 性別・年代別の認知率

消費者ホットライン 188 の認知率について性別・年代別にクロス集計した。その結果が以下の図表 2-3 である。

図表 2-3 性別・年代別にみた消費者ホットライン認知率

	知っている	知らない
男性20代 (n=191)	14.7%	85.3%
男性30代 (n=215)	13.0%	87.0%
男性40代 (n=283)	16.6%	83.4%
男性50代 (n=240)	15.8%	84.2%
男性60代 (n=209)	26.3%	73.7%
女性20代 (n=177)	26.0%	74.0%
女性30代 (n=199)	15.1%	84.9%
女性40代 (n=259)	15.1%	84.9%
女性50代 (n=224)	23.7%	76.3%
女性60代 (n=211)	30.3%	69.7%
全体	19.4%	80.6%

$$\chi^2(9)=47.265、p<0.001$$

図表 2-3 をみると、男性では 60 代の認知率が 26.3%と最も高く、20 代～50 代ではいずれも 10 数パーセントであった。女性も同様に 60 代に認知率が最も高く、30.3%であった。女性 20 代が 26.0%、女性 50 代が 23.7%とやや高い認知率であった。

（２）情報接触と消費者ホットライン 188 の認知の関連の分析

私は今回の調査で消費者ホットラインを知っている人は、情報接触経路のある人ではないかと考え以下の仮説を立てた。「様々な情報接触経路を持ち、利用している人の方が消費者ホットラインを認知している」。

情報接触経路の有無を独立変数とし、消費者ホットラインの認知を従属変数としたクロス集計結果が図表 2-4 である。

図表 2-4 情報接触と消費者ホットライン認知のクロス分析

		知っている	知らない	p値	
自分専用のパソコン所持	あてはまる (n=1488)	21.4%	78.6%	0.001	**
	あてはまらない (n=720)	15.3%	84.7%		
家族共用のパソコン所持	あてはまる (n=988)	19.8%	80.2%	0.627	
	あてはまらない (n=1220)	19.0%	81.0%		
スマートフォン所持	あてはまる (n=2043)	19.6%	80.4%	0.415	
	あてはまらない (n=165)	17.0%	83.0%		
自宅の固定電話	あてはまる (n=1372)	21.6%	78.4%	0.001	**
	あてはまらない (n=836)	15.7%	84.3%		
テレビニュースを毎日視聴	あてはまる (n=1653)	21.4%	78.6%	p<0.001	***
	あてはまらない (n=555)	13.5%	86.5%		
新聞の購読	あてはまる (n=767)	22.2%	77.8%	0.016	*
	あてはまらない (n=1441)	17.9%	82.1%		
県市町村の広報紙	あてはまる (n=962)	26.0%	74.0%	p<0.001	***
	あてはまらない (n=1246)	14.3%	85.7%		
警察の広報紙	あてはまる (n=374)	29.9%	70.1%	p<0.001	***
	あてはまらない (n=1834)	17.2%	82.8%		
Twitter利用	あてはまる (n=907)	20.0%	80.0%	0.570	
	あてはまらない (n=1301)	19.0%	81.0%		
フェイスブック利用	あてはまる (n=626)	19.6%	80.4%	0.843	
	あてはまらない (n=1582)	19.3%	80.7%		
インスタグラム利用	あてはまる (n=835)	20.8%	79.2%	0.178	
	あてはまらない (n=1373)	18.5%	81.5%		
LINE利用	あてはまる (n=1728)	20.2%	79.8%	0.067	†
	あてはまらない (n=480)	16.5%	83.5%		
よく読書する	あてはまる (n=704)	25.0%	75.0%	p<0.001	***
	あてはまらない (n=1504)	16.8%	83.2%		

*** : $p<0.001$ ** : $p<0.01$ * : $p<0.05$ † : $p<0.1$

カイ二乗検定で有意な関連がみられたのは、以下の項目である。

自分専用のパソコンに関して、所持している群の方が消費者ホットラインの認知率が高かった。1%水準で有意な差があった。本調査はネット調査会社の登録モニタに対する調査であるから、

ネット環境に対する親和性の高い人々が多いサンプルであると予想される。それであっても、自分専用のパソコンの所持群の方が認知率が高いという結果は興味深い。

自宅に固定電話がある群の方が消費者ホットラインの認知率が高かった。1%水準で有意な差があった。固定電話の有無に関しては、高齢者層の方が該当する割合が高いことが見込まれる。したがって、この関連は年齢による擬似的な関連である可能性がある。

テレビのニュースを毎日見ているという群の方が消費者ホットラインの認知率が高かった。0.1%水準で有意な差があった。テレビニュースの媒介による認知率の上昇が示唆される。

新聞購読群の方が消費者ホットラインの認知率が高かった。5%水準で有意な差があった。新聞購読は個人レベルの行動というよりは世帯単位の行動であることが推測される。すなわち、世帯で購読しているかどうかと、調査対象者個人が読んでいるかどうかは別であろう。

県や市町村の広報紙、警察の広報紙の両者とも、「目をとおしている」という群の方が消費者ホットラインの認知率が高かった。0.1%水準で有意な差があった。行政や警察の広報紙による広報宣伝効果が一定程度ありそうである。

読書に関しても、よく読書するという群の方が消費者ホットラインの認知率が高かった。0.1%水準で有意な差があった。

以上の項目では有意な関連がみられた。他方、Twitter、フェイスブック、インスタグラムといったSNS利用の有無と消費者ホットラインの認知には有意な関連はみられなかった。LINE利用に関しては、利用群においてわずかに認知率が高かった。10%水準の有意傾向であった。

概して、SNS利用は消費者被害予防の認知率の上昇に寄与している度合いが低そうである。ただし、SNS利用に関しては年齢が交絡している可能性があり、年代別に分析するなど、より詳細な分析をすべきであろう。

3. 考察

消費者ホットラインの認知率は19.4%と、列举した公的相談窓口のなかでは中程度の認知率であった。県や市の消費生活相談窓口の認知率が35.1%であったのに対しては低い水準であった。また、千葉県警察の「電話de詐欺」相談窓口よりも低い認知率であった。

性別、年代別に認知率を分析したところ、男女とも60代の認知率が高く、それ以下の年代で低い傾向がみられた。この結果からは、若年層に対して消費者ホットラインの認知を高める施策が必要であることが示唆される。

情報接触の有無と消費者ホットラインの認知とのクロス分析からは、テレビのニュース、県や市町村の広報紙、警察広報紙に接触している人ほど認知率が高いという結果がえられた。これに対し、SNS利用とはあまり関連がみられなかった。年代別の分析とあわせて考えてみれば、若年層に対する効果的な広報啓発活動が必要であることが示唆される。

第3章 公的相談窓口の認知（2）： 「どれも知らない」という回答と認知窓口数の分析

奈良澤瑠美

本章では、まず、公的機関の相談窓口について「どれも知らない」という回答であった対象者について分析する。ついで、認知している相談窓口の数について分析する。設問は「犯罪被害や悩みごとを相談する窓口として、知っているものすべてを選んでください。（いくつでも）」というものであり、14の相談窓口を提示し、選択肢として「どれも知らない」という項目も設けた。

1. 性別・年代別の分析

まずは「どれも知らない」か1つ以上知っているかの別を、性別、年代別、性別・年代別に集計した。その結果が図表3-1である。

図表3-1 公的相談窓口を「どれも知らない」という回答者の性別・年代別クロス表

		どれも知らない		1つ以上は 知っている		
	全体	全体 (n=2208)	28.8%	71.2%	p値	
性別	男性	男性 (n=1138)	35.0%	65.0%	p<0.001	***
	女性	女性 (n=1070)	22.2%	77.8%		
年代	20代	20代 (n=368)	31.0%	69.0%	p<0.001	***
	30代	30代 (n=414)	32.6%	67.4%		
	40代	40代 (n=542)	31.5%	68.5%		
	50代	50代 (n=464)	28.4%	71.6%		
	60代	60代 (n=420)	20.0%	80.0%		
性別・年代	男性20代	男性20代 (n=191)	35.6%	64.4%	p<0.001	***
	男性30代	男性30代 (n=215)	39.1%	60.9%		
	男性40代	男性40代 (n=283)	35.7%	64.3%		
	男性50代	男性50代 (n=240)	37.5%	62.5%		
	男性60代	男性60代 (n=209)	26.3%	73.7%		
	女性20代	女性20代 (n=177)	26.0%	74.0%		
	女性30代	女性30代 (n=199)	25.6%	74.4%		
	女性40代	女性40代 (n=259)	27.0%	73.0%		
	女性50代	女性50代 (n=224)	18.8%	81.3%		
	女性60代	女性60代 (n=211)	13.7%	86.3%		

*** : $p<0.001$ ** : $p<0.01$ * : $p<0.05$ † : $p<0.1$

全体では28.8%が「どれも知らない」という回答であった。

性別にみると、男性35.0%、女性22.2%がどれも知らないという回答であった。男性の方が多く、カイ二乗検定では0.1%水準で有意な差であった。

年代別にみると、「どれも知らない」という回答比率は60代で20.0%と少なく、20代から50代ではおおむね3割前後であった。カイ二乗検定では0.1%水準で有意な差であった。

性別・年代別にみると、男性では60代が26.3%と「どれも知らない」という比率が低い。20代から50代では4割弱が「どれも知らない」という回答であった。女性では、50代18.8%、60代13.7%と「どれも知らない」とする比率が低かった。20代から40代では2割強であった。

2. 情報接触と「どれも知らない」という回答との関連の分析

ついで、情報接触経路の有無と、公的機関の相談窓口を「どれも知らない」とする回答との関連を分析していく。クロス分析の結果を図表3-2に示した。

図表3-2 情報接触と「どれも知らない」という回答との関連の分析

		どれも知らない	1つ以上は知っている	p値	
自分専用のパソコン所持	あてはまる (n=1488)	28.3%	71.7%	0.446	
	あてはまらない (n=720)	29.9%	70.1%		
家族共用のパソコン所持	あてはまる (n=988)	25.2%	74.8%	0.001	**
	あてはまらない (n=1220)	31.7%	68.3%		
スマートフォン所持	あてはまる (n=2043)	28.0%	72.0%	0.006	**
	あてはまらない (n=165)	38.2%	61.8%		
自宅の固定電話	あてはまる (n=1372)	26.8%	73.2%	0.008	**
	あてはまらない (n=836)	32.1%	67.9%		
テレビニュースを毎日視聴	あてはまる (n=1653)	25.4%	74.6%	p<0.001	***
	あてはまらない (n=555)	38.9%	61.1%		
新聞の購読	あてはまる (n=767)	23.9%	76.1%	p<0.001	***
	あてはまらない (n=1441)	31.4%	68.6%		
県市町村の広報紙閲覧	あてはまる (n=962)	19.1%	80.9%	p<0.001	***
	あてはまらない (n=1246)	36.3%	63.7%		
警察の広報紙閲覧	あてはまる (n=374)	14.2%	85.8%	p<0.001	***
	あてはまらない (n=1834)	31.8%	68.2%		
Twitter利用	あてはまる (n=907)	25.2%	74.8%	0.002	**
	あてはまらない (n=1301)	31.3%	68.7%		
フェイスブック利用	あてはまる (n=626)	25.4%	74.6%	0.026	*
	あてはまらない (n=1582)	30.2%	69.8%		
インスタグラム利用	あてはまる (n=835)	25.1%	74.9%	0.003	**
	あてはまらない (n=1373)	31.0%	69.0%		
LINE利用	あてはまる (n=1728)	25.0%	75.0%	p<0.001	***
	あてはまらない (n=480)	42.5%	57.5%		
よく読書する	あてはまる (n=704)	22.9%	77.1%	p<0.001	***
	あてはまらない (n=1504)	31.6%	68.4%		

*** : $p<0.001$ ** : $p<0.01$ * : $p<0.05$ † : $p<0.1$

図表3-2をみると、「自分専用のパソコンの所持」以外のすべての項目において、有意な関連がみられた。

「どれも知らない」という回答比率が高かったのは、以下の群である。家族共用のパソコンを所持していない、スマートフォンを所持していない、自宅に固定電話がない、テレビのニュースを毎日見ていない、新聞を購読していない、県や市町村の広報紙を見ていない、警察の広報紙を見ていない、Twitter を利用していない、フェイスブックを利用していない、インスタグラムを利用していない、LINE を利用していない、読書していない。

以上の結果をみると、概して情報接触をしていない群の方が「どれも知らない」という回答比率が高い。したがって、何らかの情報接触の経路をもっているということが、公的相談窓口を認知する契機となっていることが示唆される。

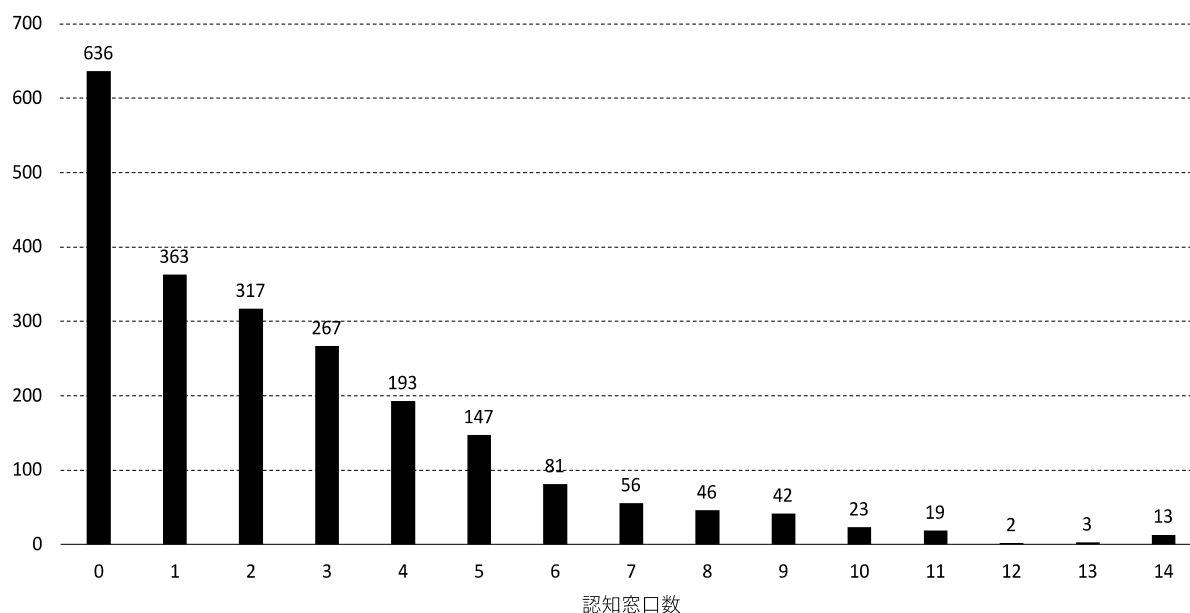
3. 情報接触と認知している窓口の数の分析

この節では、認知している窓口の数について分析する。まず、認知窓口数の単純集計をみていく。「知っている」に1を、知らないという回答に0を与え、総和を算出した。その結果を図表3-3、図表3-4に示した。

図表3-3 認知窓口数

認知数	度数	構成比 (%)
0	636	28.8
1	363	16.4
2	317	14.4
3	267	12.1
4	193	8.7
5	147	6.7
6	81	3.7
7	56	2.5
8	46	2.1
9	42	1.9
10	23	1.0
11	19	0.9
12	2	0.1
13	3	0.1
14	13	0.6
合計	2208	100.0

図表3-4 認知窓口数の分布 (N=2208)



※項目の数値は度数

図表3-3、図表3-4から見てとれるように、認知窓口数0（どれも知らない）がもっとも多い、左肩上がりの分布となっている。

窓口認知数の統計量は以下のとおりである。平均値2.54、中央値2.00、標準偏差2.73 (N=2208)。

ついで、認知窓口数を従属変数とし、性別、年齢、そして前節で分析した情報接触項目を独立変数とした重回帰分析を行った。

まず、全変数を強制投入した分析を行った。ついで、性別と年齢のみは強制投入し、情報接触項目についてステップワイズ法を用いた分析を行った。なお、情報接触項目の数が多く、相互の関連の強さが予測されたため、多重共線性の確認のために VIF も算出した。その結果が図表 3-5 である。

図表 3-5 認知窓口数の重回帰分析

	強制投入モデル			ステップワイズ		
	β	p値	VIF	β	p値	VIF
性別（男=1、女=0）	-0.11	0.000	1.13	-0.11	0.000	1.10
年齢	0.06	0.030	1.62	0.05	0.020	1.35
自分専用のパソコン所持	0.04	0.065	1.19	0.04	0.035	1.08
家族共用のパソコン所持	0.01	0.575	1.15			
スマートフォン所持	0.01	0.732	1.22			
自宅の固定電話	0.01	0.724	1.43			
テレビニュースを毎日視聴	0.04	0.115	1.21			
新聞の購読	-0.03	0.284	1.43			
県市町村の広報紙閲覧	0.12	0.000	1.55	0.13	0.000	1.38
警察の広報紙閲覧	0.13	0.000	1.31	0.13	0.000	1.28
Twitter利用	0.04	0.136	1.46			
フェイスブック利用	0.02	0.394	1.27			
インスタグラム利用	0.05	0.086	1.70	0.07	0.004	1.31
LINE利用	0.05	0.026	1.38	0.07	0.002	1.14
よく読書する	0.10	0.000	1.08	0.10	0.000	1.06
	N=2208			N=2208		
	p<0.001			p<0.001		
	adj. R ² =0.10			adj. R ² =0.10		

ステップワイズ法の結果を参照すると、以下の結果が得られた。性別は女性である方が、年齢は高年齢であることが有意に窓口認知数を高めていた。

情報接触に関しては、県や市町村の広報紙、警察の広報紙を見ていることが窓口認知数を高めていた。この二者は他のどの変数よりも強い効果を有していた。

ついで、よく読書すること、インスタグラムを利用していること、LINE を利用していることに有意な効果がみられた。

SNS 利用にも一定の効果がみられたが、従来型の紙媒体による情報接触をもっていることの方が、窓口認知数を高めているという結果であった。

第4章 公的機関・職業への信頼：市町村役場への信頼を中心に

本吉亮太

本章ではまず、様々な公的機関・職業に対する信頼度を分析する。ついで、特に市町村役場への信頼について分析する。

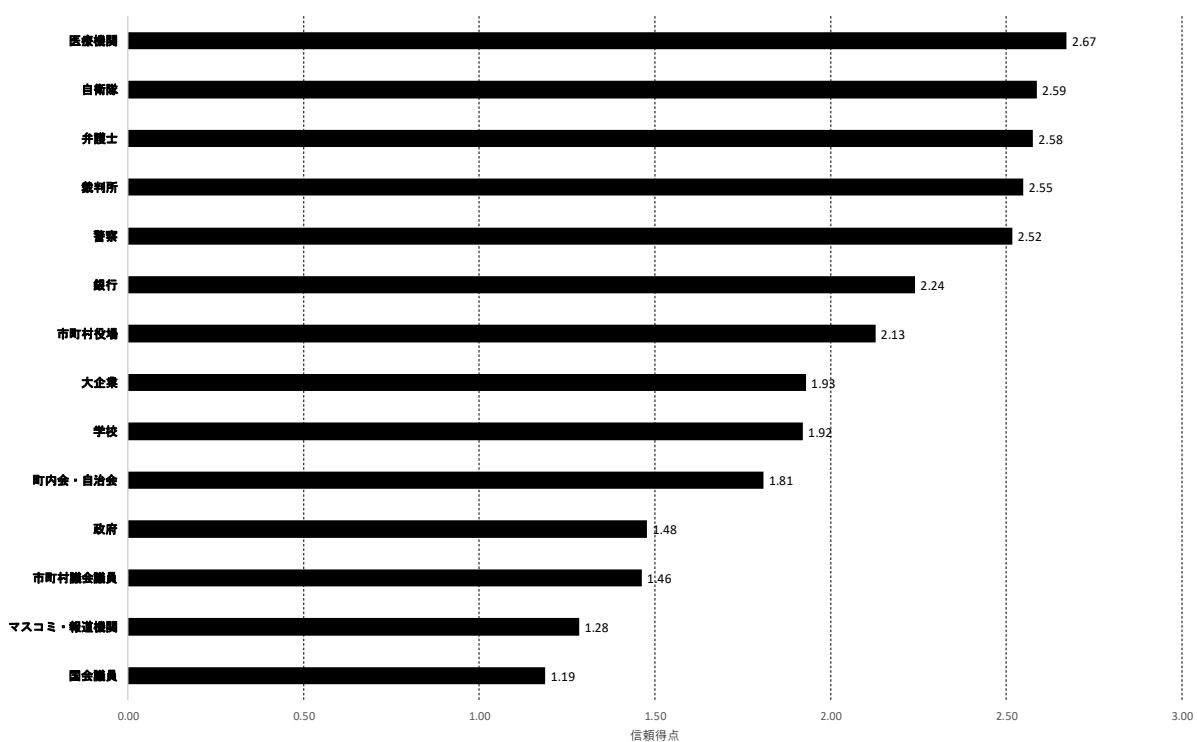
1. 単純集計

Q3において14の公的機関・職業を列挙し、信頼について尋ねた。質問文は「あなたは、以下の機関や職業を信頼できますか」である。回答は「信頼できる」「どちらかといえば信頼できる」「どちらともいえない」「どちらかといえば信頼できない」「信頼できない」の5件法である。

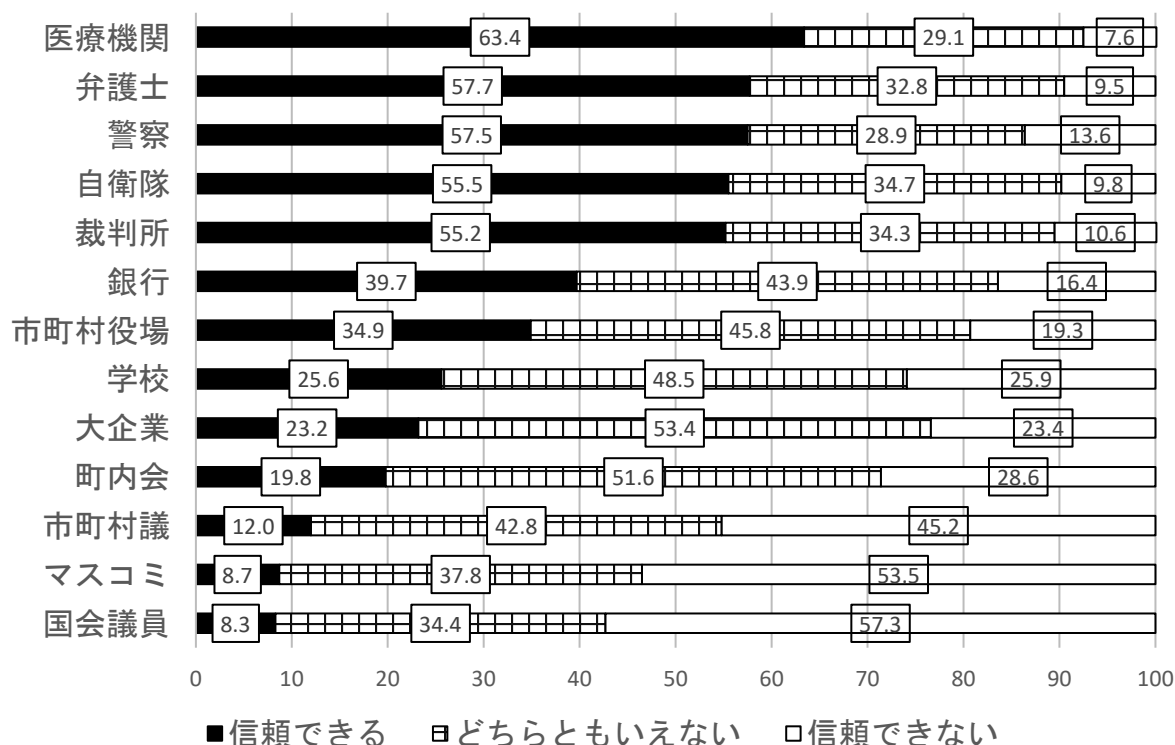
「信頼できる」という回答に4点、「信頼できない」に0点を与え、平均値を算出し、高い順にならべかえた。結果は以下の図表4-1のようになった。医療機関、自衛隊、弁護士、裁判所、警察、銀行の信頼度は高く信頼されていた。他方、国会議員、マスコミ・報道機関、市町村議会議員、政府の信頼度は低かった。

図表4-1 信頼得点（信頼できる=4～信頼できない=0）

(N=2208)



図表 4-2 信頼 3 区分



図表 4-2 は、「信頼できる」と「どちらかといえば信頼できる」を、「どちらかといえば信頼できない」と「信頼できない」を統合し、回答を 3 件にまとめあげた結果を示したものである。「信頼できる」の構成比の多い順番に並べかえてある。

この図から、以下のことが読みとれる。医療機関、弁護士、警察、自衛隊、裁判所に関しては、「信頼できる」という回答がもっとも多かった。銀行、市町村役場、学校、大企業、町内会・自治会に関しては、「どちらともいえない」という回答がもっとも多かった。市町村議員、マスコミ・報道機関に関しては、「信頼できない」という回答がもっとも多かった。

なお、この調査項目に関しては、一般社団法人中央調査社が継続的に実施している「議員、官僚、大企業、警察等の信頼感」調査を参照した。当該調査の直近の報告書は以下である。

(一社) 中央調査社「議員、官僚、大企業、警察等の信頼感」調査 (調査結果の概要)

<https://www.crs.or.jp/data/pdf/trust19.pdf>

2. 市町村役場への信頼感の分析

第 2 節では、市町村役場への信頼感に焦点をあてた分析を行う。図表 4-1、図表 4-2 からは、市町村役場への信頼は、様々な公的機関のちょうど中間程度であった。住民にとってもっとも身近な公的機関である市町村役場への信頼に注目したい。

(1) 性別、年代別、性別かつ年代別にみた市町村役場への信頼

市町村役場への信頼について、前節と同様に 3 件法にまとめあげた結果を従属変数とし、性別、年代別、性別かつ年代別にクロス集計した結果が図表 4-3 である。

図表 4-3 性別、年代別、性別かつ年代別にみた市町村役場への信頼

		信頼できる	どちらとも いえない	信頼できない	p 値
性別	男性 (n=1138)	36.4%	44.5%	19.2%	0.285
	女性 (n=1070)	33.3%	47.3%	19.4%	
年代	20代 (n=368)	35.1%	40.5%	24.5%	p<0.001 ***
	30代 (n=414)	27.8%	46.4%	25.8%	
	40代 (n=542)	35.2%	46.7%	18.1%	
	50代 (n=464)	33.8%	48.9%	17.2%	
	60代 (n=420)	42.4%	45.5%	12.1%	
性別・年代	男性20代 (n=191)	34.6%	38.7%	26.7%	p<0.001 ***
	男性30代 (n=215)	30.2%	42.3%	27.4%	
	男性40代 (n=283)	36.0%	48.1%	15.9%	
	男性50代 (n=240)	36.3%	49.2%	14.6%	
	男性60代 (n=209)	45.0%	41.6%	13.4%	
	女性20代 (n=177)	35.6%	42.4%	22.0%	
	女性30代 (n=199)	25.1%	50.8%	24.1%	
	女性40代 (n=259)	34.4%	45.2%	20.5%	
	女性50代 (n=224)	31.3%	48.7%	20.1%	
	女性60代 (n=211)	39.8%	49.3%	10.9%	

*** : $p<0.001$ ** : $p<0.01$ * : $p<0.05$ † : $p<0.1$

市町村役場への信頼に関して、性別によるちがいは見られなかった。

年代別にみると、60代の信頼が42.2%であり、他の年代よりも高かった。おおむね10ポイント程度の差であった。カイ二乗検定では0.1%水準で有意な差であった。

性別かつ年代別のクロス集計結果をみると、男女ともに60代の信頼が高かった。とりわけ男性60代では45.0%と半数近くが信頼できるという回答であった。カイ二乗検定では0.1%水準で有意な差であった。

(2) ソーシャルサポートと市町村役場への信頼

つづいて、ソーシャルサポートの有無と市町村役場への信頼の関連を分析していく。調査票Q8において、12項目でソーシャルサポートの有無を測定した。この項目は、「ソーシャルサポート尺度日本語版」(岩佐他 2007)を使用した。(厚生労働統計協会『厚生指標』54(6)、<https://www.hws-kyokai.or.jp/images/ronbun/all/200706-5.pdf>)。

回答は「非常にそう思う」「そう思う」「そう思わない」「全くそう思わない(いない)」の4件法であるが、前二者と後二者をそれぞれ統合し、2値化して分析に用いる。

ソーシャルサポートの有無を独立変数とし、市町村役場への信頼を従属変数としたクロス集計を行った。その結果が図表4-4である。

図表 4-4 ソーシャルサポートと市町村役場への信頼

		信頼できる	どちらとも いえない	信頼できない	p値	
困ったときにそばにいてくれる人がある	そう思う (n=1588)	39.4%	44.6%	16.0%	p<0.001	***
	そう思わない (n=620)	23.4%	48.9%	27.7%		
喜びと悲しみを分かち合える人がある	そう思う (n=1597)	38.8%	45.8%	15.4%	p<0.001	***
	そう思わない (n=611)	24.5%	46.0%	29.5%		
家族は本当に私を助けてくれる	そう思う (n=1716)	39.2%	45.8%	15.0%	p<0.001	***
	そう思わない (n=492)	19.7%	45.9%	34.3%		
必要な時に、私の家族は私の心の支えとなるような手を差し伸べてくれる	そう思う (n=1634)	39.8%	44.9%	15.2%	p<0.001	***
	そう思わない (n=574)	20.7%	48.4%	30.8%		
真の慰めの源となるような人がある	そう思う (n=1335)	40.0%	45.2%	14.8%	p<0.001	***
	そう思わない (n=873)	27.0%	46.8%	26.1%		
友人たちは本当に私を助けてくれようとする	そう思う (n=1253)	40.2%	44.4%	15.4%	p<0.001	***
	そう思わない (n=955)	27.9%	47.7%	24.4%		
色々なことがうまくいかない時に、私は友人たちをあてにすることができる	そう思う (n=1052)	39.4%	44.5%	16.1%	p<0.001	***
	そう思わない (n=1156)	30.7%	47.1%	22.2%		
家族と自分の問題について話し合うことができる	そう思う (n=1529)	39.4%	44.7%	15.9%	p<0.001	***
	そう思わない (n=679)	24.6%	48.5%	27.0%		
喜びと悲しみを分かちあえる友人がある	そう思う (n=1319)	38.1%	45.9%	16.0%	p<0.001	***
	そう思わない (n=889)	30.0%	45.8%	24.2%		
私の気持ちについて何かと気づかってくれる人がある	そう思う (n=1483)	39.2%	44.4%	16.3%	p<0.001	***
	そう思わない (n=725)	25.9%	48.7%	25.4%		
家族は私が何か決めるときに、喜んで助けてくれる	そう思う (n=1577)	39.2%	46.0%	14.8%	p<0.001	***
	そう思わない (n=631)	24.1%	45.5%	30.4%		
自分の問題について友人たちと話すことができる	そう思う (n=1255)	38.6%	45.7%	15.7%	p<0.001	***
	そう思わない (n=953)	30.0%	46.0%	24.0%		

*** : $p<0.001$ ** : $p<0.01$ * : $p<0.05$ † : $p<0.1$

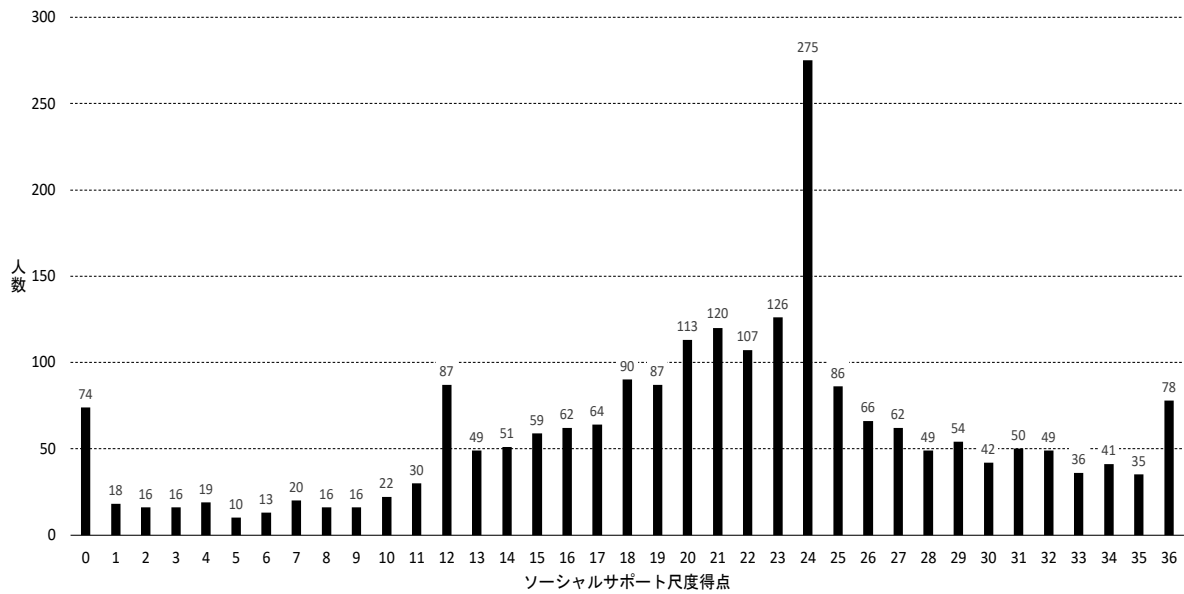
結果として、すべてのクロス集計結果において、ソーシャルサポートのある群の方が市町村役場を信頼していた。すべての項目においてもカイ二乗検定において 0.1%水準で有意な差であった。

(3) ソーシャルサポートを尺度化した分析

前項で扱ったソーシャルサポートを測定する項目を尺度化した分析を行った。「非常にそう思う」を3、「そう思う」を2、「そう思わない」を1、「全くそう思わない (いない)」を0として12変数の総和を算出し、ソーシャルサポート得点とした。

その結果、平均値 20.83、中央値 22.0、標準偏差 8.51、最小値 0、最大値 36 (N=2208) となった。これら 12 項目の信頼性係数は $\alpha=0.948$ となった。ソーシャルサポート得点の分布を図表 4-5 に示した。

図表 4-5 ソーシャルサポート得点の分布



ソーシャルサポート得点、性別、年齢を独立変数とし、市町村役場への信頼を従属変数とした重回帰分析を行った。信頼は「信頼できる」を4、「どちらかといえば信頼できる」を3、「どちらともいえない」を2、「どちらかといえば信頼できない」を1、「信頼できない」を0とした。その結果を図表4-6に示した。

結果として、性別、年齢、ソーシャルサポート尺度のいずれもが有意な変数として採用された。性別と年齢を統制しても、ソーシャルサポートは有意であった。標準化係数をみると、性別、年齢の効果よりもソーシャルサポートの効果が大きかった。

ただし、調整済み決定係数は0.063と、あてはまりのよいモデルではない。

図表 4-6 市町村役場への信頼を従属変数とした重回帰分析

	B	標準化係数	p値
性別（男=1、女=0）	0.12	0.06	0.003
年齢	0.01	0.11	0.000
ソーシャルサポート尺度	0.03	0.24	0.000
定数	1.12		0.000
N=2208			
p<0.001			
adj. R ² =0.063			

7. 考察

本章では、まず様々な公的機関・職業への信頼を概観した。そのなかで、ちょうど信頼度が中間程度であった市町村役場への信頼に焦点をあてた分析を行った。

クロス集計の結果からは、年齢が 60 代において市町村役場への信頼が高かった。

ついで、ソーシャルサポートと市町村役場への信頼の関連を分析した。ソーシャルサポートを測定するすべての項目において、ソーシャルサポートを有する人の方が有意に市町村役場を信頼していた。

ソーシャルサポートを尺度化した重回帰分析も行った。その結果、ソーシャルサポート尺度は、性別と年齢の効果を統制しても、有意に市町村役場への信頼を高めていた。

この結果は、私的領域におけるサポート源を多く有している人ほど、公的機関である市町村役場を信頼しているということである。自助・共助・公助という区分でいえば、自助あるいは共助の資源をもっている人の方が公的機関を信頼しているということになる。逆にいえば、そうした資源をもたない人ほど公的機関を信頼していないということであり、こうしたメカニズムに関しては、より詳細な分析の必要性がある。

第5章 公的機関・専門職への相談意向

山崎 幹太

本章では、最初に、何らかの犯罪被害にあった際の公的機関への相談意向について概観する。ついで、警察への相談意向に焦点をあて、罪種別に、性別、年代別と警察への相談意向の有無についてクロス分析する。最後に、学歴と公私への相談意向の有無について分析する。

1. 犯罪被害の相談意向の概観

犯罪被害の相談意向についての質問項目は以下の通りである。

- Q1S1 あなたや同居家族が、悪徳商法で10万円くらいの被害にあったとしたら（以下「悪徳商法」）
Q1S2 あなたや同居家族が、知人から暴力を受けて全治10日くらいのケガをしたら（以下「暴力」）
Q1S3 あなたや同居家族が、ネット上で個人情報を出されて誹謗中傷されたら（以下「誹謗中傷」）
Q1S4 あなたや同居家族が、交通事故の被害にあって大怪我をしたら（以下「交通事故」）
Q1S5 あなたや同居家族が、性被害にあったら（以下「性被害」）
Q1S6 あなたや同居家族が、強盗被害にあったら（以下「強盗被害」）
Q1S7 あなたや同居家族が、つきまといなどのストーカー行為をされたら（以下「ストーカー行為」）
Q1S8 近所で、虐待されているのではないかとと思われる子どもを見かけたら（以下「虐待」）
Q1S9 近所で、DV被害ではないかとと思われる人を見かけたら（以下「DV被害」）

図表5-1 犯罪被害の相談意向についての単純集計表（相談する構成比） N=2208

	家族や親戚	会社や学校の人	友人	警察	市町村役場などの相談窓口や専門機関	弁護士（会）など法律の専門家	カウンセラー等心の専門家	精神科医や心療内科医	TwitterなどのSNSに投稿して相談	誰にも相談しない
悪徳商法	36.5	4.8	9.9	73.7	21.2	18.9	0.5	0.8	1.9	8.8
暴力	39.3	6.8	11.0	78.0	12.3	21.6	2.7	2.4	1.1	7.6
誹謗中傷	36.0	5.6	12.5	62.3	18.7	28.1	3.4	2.3	3.4	10.3
交通事故	42.3	10.1	11.3	74.8	11.0	23.0	1.9	1.8	1.2	7.2
性被害	31.5	3.0	7.3	76.2	13.3	19.9	12.9	11.1	1.6	9.0
強盗被害	37.1	5.5	9.3	83.6	7.9	11.9	1.2	1.0	1.0	6.7
ストーカー行為	38.2	7.4	13.1	80.7	14.5	15.1	2.2	1.5	1.7	7.4
虐待	30.7	5.6	9.2	55.9	40.4	3.9	1.7	0.9	1.5	10.6
DV被害	30.3	4.8	9.6	57.0	33.5	4.9	1.6	1.0	1.4	11.9

(%)

相談意向についての単純集計は、以下のようになった。

家族や親戚に相談する割合は、おおむね三割から四割弱であった。会社や学校の人への相談は、一割に満たない程度であった。友人への相談は、一割程度であった。

警察への相談は、六割程度から八割程度の分布であった。強盗被害、ストーカー被害では八割程度であるが、虐待の疑いやDV被害の疑いでは六割弱であった。市町村役場の相談窓口や専門機関への相談は一割から二割程度であったが、虐待の疑いで40.4%、DV被害の疑いで33.5%と高い傾向がみられた。

弁護士（会）などへは一割から二割台であるが、事案の内容によるばらつきが大きかった。カウンセラー等心理職への相談は数パーセント程度であったが、性被害の場合では一割強と高かった。精神科医や心療内科への相談はきわめて少なかったが、性被害の場合は一割と高めであった。Twitter など SNS への投稿は 1 パーセント程度であったが、ネット上の誹謗中傷では 3.4% であった。誰にも相談しないという回答が一割前後あった。

2. 警察への相談意向の分析

（１）性別にみた警察への相談意向

犯罪被害の相談意向の 9 項目について、性別にクロス集計をし、カイ二乗検定を行った。その結果が図表 5-2 である。

図表 5-2 性別にみた警察への相談意向

		相談する	相談しない	カイ ² 値	p値	
悪徳商法	男性 (n = 1138)	70.3%	29.7%	13.90	<.001	***
	女性 (n = 1070)	77.3%	22.7%			
暴力	男性 (n = 1138)	75.0%	25.0%	12.98	<.001	***
	女性 (n = 1070)	81.3%	18.7%			
誹謗中傷	男性 (n = 1138)	59.8%	40.2%	6.14	0.01	*
	女性 (n = 1070)	65.0%	35.1%			
交通事故	男性 (n = 1138)	70.7%	29.4%	21.17	<.001	***
	女性 (n = 1070)	79.2%	20.8%			
性被害	男性 (n = 1138)	74.3%	25.7%	4.59	0.03	*
	女性 (n = 1070)	78.2%	21.8%			
強盗被害	男性 (n = 1138)	79.9%	20.1%	23.81	<.001	***
	女性 (n = 1070)	87.6%	12.4%			
ストーカー行為	男性 (n = 1138)	77.2%	22.8%	17.61	<.001	***
	女性 (n = 1070)	84.3%	15.7%			
虐待	男性 (n = 1138)	57.1%	42.9%	1.34	0.25	
	女性 (n = 1070)	54.7%	45.3%			
DV被害	男性 (n = 1138)	57.8%	42.2%	0.69	0.41	
	女性 (n = 1070)	56.1%	43.9%			

*** : $p < 0.001$ ** : $p < 0.01$ * : $p < 0.05$ † : $p < 0.1$

上記の表の「悪徳商法」「暴力」「誹謗中傷」「交通事故」「性被害」「強盗被害」「ストーカー行為」の 7 項目で男性よりも女性のほうが、警察へ相談するという割合が高いという結果が見られた。カイ二乗検定で有意な差であった。「虐待」「DV被害」については、性別による違いはみられなかった。

（２）年代と警察への相談意向の有無のクロス集計

犯罪被害の相談意向の９項目について年代別にクロス集計をし、カイ二乗検定を行った。その結果が図表５－３である。

図表５－３ 年代別にみた警察への相談意向

		相談する	相談しない	χ^2 値	p値	
悪徳商法	20代 (n=368)	64.9%	35.1%	39.94	<.001	***
	30代 (n=414)	68.6%	31.4%			
	40代 (n=542)	74.2%	25.8%			
	50代 (n=464)	76.3%	23.7%			
	60代 (n=420)	82.9%	17.1%			
暴力	20代 (n=368)	66.6%	33.4%	59.75	<.001	***
	30代 (n=414)	73.4%	26.6%			
	40代 (n=542)	78.4%	21.6%			
	50代 (n=464)	82.3%	17.7%			
	60代 (n=420)	87.4%	12.6%			
誹謗中傷	20代 (n=368)	56.3%	43.8%	17.56	0.002	**
	30代 (n=414)	57.0%	43.0%			
	40代 (n=542)	63.8%	36.2%			
	50代 (n=464)	66.4%	33.6%			
	60代 (n=420)	66.4%	33.6%			
交通事故	20代 (n=368)	64.9%	35.0%	46.09	<.001	***
	30代 (n=414)	70.0%	30.0%			
	40代 (n=542)	74.5%	25.5%			
	50代 (n=464)	78.9%	21.1%			
	60代 (n=420)	83.9%	16.2%			
性被害	20代 (n=368)	67.9%	32.1%	30.66	<.001	***
	30代 (n=414)	72.0%	28.0%			
	40代 (n=542)	77.1%	22.9%			
	50代 (n=464)	80.0%	20.0%			
	60代 (n=420)	82.4%	17.6%			
強盗被害	20代 (n=368)	72.8%	27.2%	68.26	<.001	***
	30代 (n=414)	79.0%	21.0%			
	40代 (n=542)	83.4%	16.6%			
	50代 (n=464)	89.2%	10.8%			
	60代 (n=420)	91.7%	8.3%			
ストーカー行為	20代 (n=368)	68.8%	31.3%	66.88	<.001	***
	30代 (n=414)	75.6%	24.4%			
	40代 (n=542)	81.9%	18.1%			
	50代 (n=464)	85.6%	14.4%			
	60代 (n=420)	89.0%	11.0%			
虐待	20代 (n=368)	51.1%	48.9%	21.75	0.000	***
	30代 (n=414)	51.4%	48.6%			
	40代 (n=542)	56.1%	43.9%			
	50代 (n=464)	55.2%	44.8%			
	60代 (n=420)	65.2%	34.8%			
DV被害	20代 (n=368)	49.7%	50.3%	32.73	<.001	***
	30代 (n=414)	51.2%	48.8%			
	40代 (n=542)	56.6%	43.4%			
	50代 (n=464)	58.8%	41.2%			
	60代 (n=420)	67.4%	32.6%			

*** : $p<0.001$ ** : $p<0.01$ * : $p<0.05$ † : $p<0.1$

9項目すべてにおいて、年代別に有意な差がみられた。どの犯罪被害においても年代が上がるごとに相談する割合が増えている。

3. 学歴と公的機関・専門職への相談意向の関連の分析

問1の1. 家族や親戚、2. 会社や学校の人、3. 友人の3つを私的なものとしてまとめ、4. 警察、5. 市町村役場などの相談窓口や専門機関、6. 弁護士（会）など法律の専門家、7. カウンセラー等の心の専門家、8. 精神科医や心療内科医の5つを公的機関・専門職としてまとめた。

これと学歴とをクロス集計をし、カイ二乗検定を行った。公的機関・専門職への相談意向には9項目のうちすべてに有意な差が見ることができた。しかし、私的なものにはすべての項目において有意な差は見られなかった。

図表 5-4 学歴と公的機関・専門職への相談意向のクロス集計表

		相談する	相談しない	カイ ² 値	p値	
悪徳商法	大卒（n = 1078）	83.3%	16.7%	5.58	0.02	*
	非大卒（n = 1130）	79.4%	20.6%			
暴力	大卒（n = 1078）	85.4%	14.6%	16.67	<.001	***
	非大卒（n = 1130）	78.8%	21.2%			
誹謗中傷	大卒（n = 1078）	79.2%	20.8%	16.52	<.001	***
	非大卒（n = 1130）	71.8%	28.2%			
交通事故	大卒（n = 1078）	82.7%	17.4%	7.65	0.006	*
	非大卒（n = 1130）	78.0%	22.0%			
性被害	大卒（n = 1078）	85.3%	14.7%	17.82	<.001	***
	非大卒（n = 1130）	78.4%	21.6%			
強盗被害	大卒（n = 1078）	87.9%	12.1%	9.38	0.002	**
	非大卒（n = 1130）	83.4%	16.6%			
ストーカー行為	大卒（n = 1078）	86.6%	13.5%	16.09	<.001	***
	非大卒（n = 1130）	80.2%	19.8%			
虐待	大卒（n = 1078）	79.4%	20.6%	4.85	0.03	*
	非大卒（n = 1130）	75.5%	24.5%			
DV被害	大卒（n = 1078）	77.0%	23.0%	5.51	0.02	*
	非大卒（n = 1130）	72.7%	27.4%			

*** : $p < 0.001$ ** : $p < 0.01$ * : $p < 0.05$ † : $p < 0.1$

上記の表の9項目すべてに有意な差がみられた。どの項目においても大卒であるほうが非大卒であるよりも公的機関・専門家への相談意向が有意に高かった。

以上の分析から、性別、年代、学歴といった属性によって警察等の公的機関・専門職への相談意向の有無が異なることが明らかになった。

第6章 政策の必要性認識の分析

横関 文人

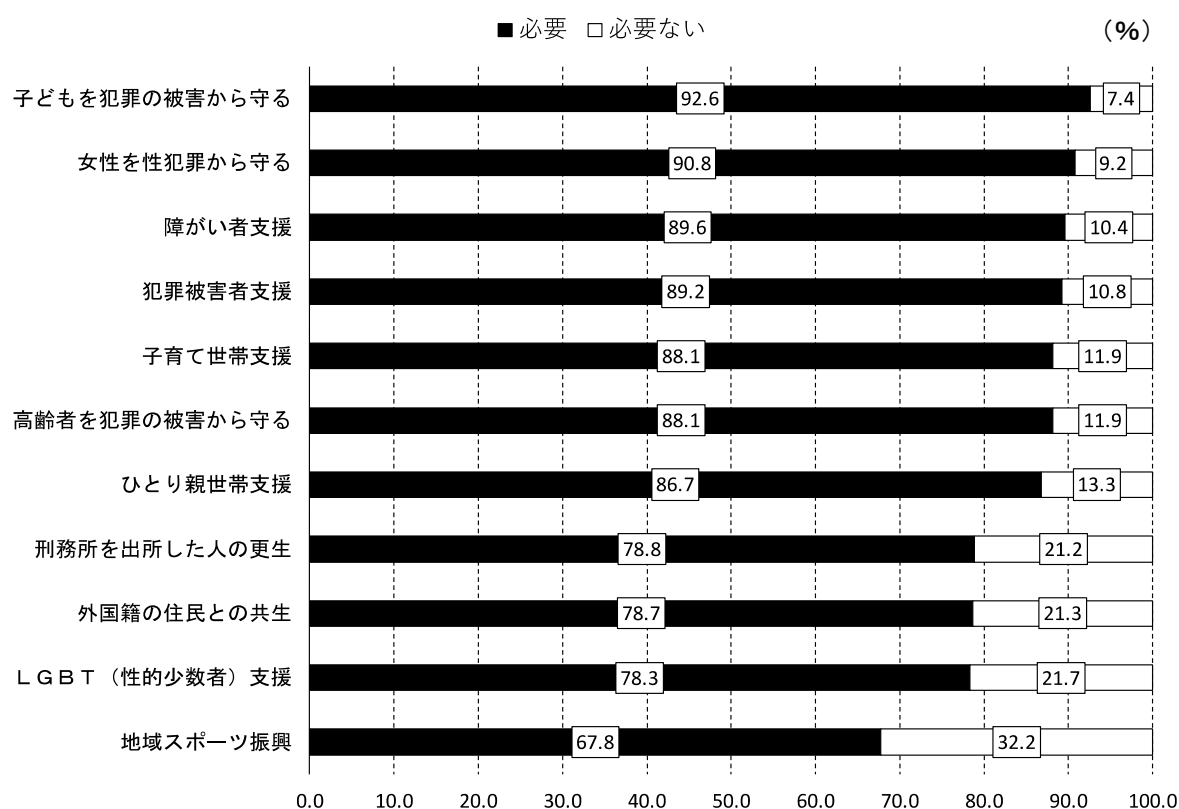
本章では政策の必要性認識について分析する。政策項目として11項目を提示して回答を得た。設問は、「政府や自治体などの政策として、以下のそれぞれについて必要性をおたずねします」である。いずれも回答は、必要である、どちらかといえば必要である、どちらかといえば必要ない、必要ないの4件法とした。前者2つを結合し「必要である」とし、後者2つを結合し「必要なし」とし2群化し分析に用いた。

1. 単純集計

政策の各項目を2群化し、「必要である」という回答の構成比の高い順にならべかえた図が図表6-1である。

図表6-1 政策の必要性認識の単純集計

(N=2208)



いずれの政策も、必要であるという回答が半数を超えた。子どもを犯罪被害から守ること、女性を犯罪被害から守ること、障がい者支援、犯罪被害者支援、子育て世帯支援、高齢者を犯罪被害から守ること、ひとり親世帯支援は、九割前後が必要であるという回答であった。

刑務所出所者の更生、外国籍住民との共生、LGBT 支援は八割弱が必要という回答であった。

2. 政策の必要性認識のクロス分析

ここでは、性別、年代別に政策必要性の認識を分析する。

(1) 性別クロス分析

性別のクロス分析結果を図表 6-2 に示した。

図表 6-2 性別にみた政策必要性認識

		必要あり	必要なし	χ^2 値	p 値	
女性を性犯罪から守る	男 (n=1138)	86.6%	13.4%	47.48	p<0.001	***
	女 (n=1070)	95.1%	4.9%			
子供を犯罪の被害から守る	男 (n=1138)	90.5%	9.5%	15.26	p<0.001	***
	女 (n=1070)	94.9%	5.1%			
高齢者を犯罪の被害から守る	男 (n=1138)	84.3%	15.7%	33.52	p<0.001	***
	女 (n=1070)	92.2%	7.8%			
外国籍住民との共生	男 (n=1138)	75.2%	24.8%	16.64	p<0.001	***
	女 (n=1070)	82.3%	17.7%			
刑務所を出所した人の更生	男 (n=1138)	73.9%	26.1%	34.48	p<0.001	***
	女 (n=1070)	84.1%	15.9%			
LGBT (性的少数者) 支援	男 (n=1138)	72.6%	27.4%	44.49	p<0.001	***
	女 (n=1070)	84.3%	15.7%			
犯罪被害者支援	男 (n=1138)	85.5%	14.5%	33.79	p<0.001	***
	女 (n=1070)	93.2%	6.8%			
子育て世帯の支援	男 (n=1138)	88.3%	13.7%	7.62	0.006	**
	女 (n=1070)	90.1%	9.9%			
ひとり親世帯の支援	男 (n=1138)	83.9%	16.1%	16.12	p<0.001	***
	女 (n=1070)	89.7%	10.3%			
障がい者支援	男 (n=1138)	86.2%	13.8%	29.63	p<0.001	***
	女 (n=1070)	93.3%	6.7%			
地域スポーツ振興	男 (n=1138)	67.8%	32.3%	0.00	0.997	
	女 (n=1070)	67.8%	32.2%			

*** : $p<0.001$ ** : $p<0.01$ * : $p<0.05$ † : $p<0.1$

性別にみると、カイ二乗検定において有意な差のあった 10 の項目すべてで女性の方が政策の必要性意向が高かった。

犯罪被害に対する政策である「女性を性犯罪から守るための取り組み」「子どもを犯罪の被害から守るための取り組み」「高齢者を犯罪の被害から守るための取り組み」「犯罪被害者を支援するための取り組み」の 4 項目で見ると「女性を性犯罪から守るための取り組み」は男性 86.6%、女性 95.1%と女性の方が 8.5 ポイント高かった。「子どもを犯罪の被害から守るための取り組み」は男性 90.5%、女性 94.9%であった。「高齢者を犯罪の被害から守るための取り組み」は男性 84.3%、女性 92.2%と女性の方が 7.9 ポイント高かった。「犯罪被害者を支援するための取り組み」は男性 85.5%、女性 93.2%と女性の方が 7.7 ポイント高かった。

地域スポーツ振興に関しては、性差はみられなかった。

（２）年代別クロス分析

年代別に政策必要性認識をクロス分析した。その結果を図表 6-3 に示した。

年代別に見ると、年代が上がるほど政策が必要という回答比率が高くなっていく傾向にあった。60 代ではすべての回答項目において 8 割以上が政策を必要と回答した。

犯罪被害に対する政策である「女性を性犯罪から守るための取り組み」「子どもを犯罪の被害から守るための取り組み」「高齢者を犯罪の被害から守るための取り組み」「犯罪被害者を支援するための取り組み」の 4 項目で見ると「女性を性犯罪から守るための取り組み」は 20 代から 30 代までは 8 割台だが、40 代以上では 9 割以上の人が必要という回答であった。

「子どもを犯罪の被害から守る取り組み」はすべての年代において 9 割以上が必要とする回答であり、有意な差はなかった。「高齢者を犯罪の被害から守るための取り組み」は 20 代から 40 代までは 8 割台だが、50 代以降は 9 割以上が必要という回答であった。「犯罪被害者を支援するための取り組み」は 20 代から 40 代は 8 割台であり、50 代以上では 9 割以上が必要という回答であった。

3. 犯罪被害者支援の必要性認識の分析

最後に、犯罪被害者支援の必要性認識に特化した分析を行った。独立変数として婚姻関係、子どもの有無、警察への信頼、町内会・自治会加入、学歴（大学卒かどうか）、新聞購読、県市町村広報紙閲覧の有無、警察広報紙の閲覧の有無、過去 1 年間の自分や家族の犯罪被害経験を用了。クロス集計結果を、図表 6-4 に示した。

明瞭な差がみられたのは、警察への信頼感であった。警察を信頼していると、犯罪被害者支援が必要であるとする回答が多かった。警察を信頼している人では 93.8% が被害者支援が必要であると回答した。どちらともいえない人では 86.8%、信頼できないという人では 75.1% であった。カイ二乗検定では 0.1% で有意な差であった。

そのほかに比較的ちがいがみられた項目は、町内会・自治会加入、県市町村の広報紙閲覧であった。これらに該当する人は、犯罪被害者支援を必要であるとする回答が多かった。

他方、過去 1 年間の自分や家族の犯罪被害経験の有無とは関連がみられなかった。

図表 6-3 年代別にみた政策必要性認識

		必要あり	必要なし	χ^2 値	p 値	
女性を性犯罪から守る	20 代 (n=368)	86.7%	13.3%	15.47	0.0038	**
	30 代 (n=414)	89.4%	10.6%			
	40 代 (n=542)	90.4%	9.6%			
	50 代 (n=464)	93.8%	6.3%			
	60 代 (n=420)	92.9%	7.1%			
子供を犯罪の被害から守る	20 代 (n=368)	91.0%	9.0%	9.35	0.053	
	30 代 (n=414)	91.3%	8.7%			
	40 代 (n=542)	91.3%	8.7%			
	50 代 (n=464)	94.4%	5.6%			
	60 代 (n=420)	95.0%	5.0%			
高齢者を犯罪の被害から守る	20 代 (n=368)	82.3%	17.7%	31.73	p<0.001	***
	30 代 (n=414)	85.0%	15.0%			
	40 代 (n=542)	87.6%	12.4%			
	50 代 (n=464)	91.2%	8.8%			
	60 代 (n=420)	93.6%	6.4%			
外国籍の住民との共生	20 代 (n=368)	76.9%	23.1%	8.69	0.0693	
	30 代 (n=414)	76.1%	23.9%			
	40 代 (n=542)	77.3%	22.7%			
	50 代 (n=464)	79.7%	20.3%			
	60 代 (n=420)	83.3%	16.7%			
刑務所を出所した人の更生	20 代 (n=368)	74.7%	25.3%	24.57	p<0.001	***
	30 代 (n=414)	74.9%	25.1%			
	40 代 (n=542)	76.8%	23.3%			
	50 代 (n=464)	81.5%	18.5%			
	60 代 (n=420)	86.2%	13.8%			
LGBT (性的少数者) の支援	20 代 (n=368)	81.3%	18.8%	11.29	0.0235	*
	30 代 (n=414)	76.6%	23.4%			
	40 代 (n=542)	76.6%	23.4%			
	50 代 (n=464)	75.2%	24.8%			
	60 代 (n=420)	82.9%	17.1%			
犯罪被害者の支援	20 代 (n=368)	84.8%	15.2%	22.32	0.0002	***
	30 代 (n=414)	87.2%	12.8%			
	40 代 (n=542)	88.2%	11.8%			
	50 代 (n=464)	91.4%	8.6%			
	60 代 (n=420)	94.1%	6.0%			
子育て世帯の支援	20 代 (n=368)	88.3%	11.7%	8.79	0.0667	
	30 代 (n=414)	90.1%	9.9%			
	40 代 (n=542)	86.0%	14.0%			
	50 代 (n=464)	86.2%	13.8%			
	60 代 (n=420)	91.0%	9.1%			
ひとり親世帯の支援	20 代 (n=368)	86.7%	13.3%	16.52	0.0024	**
	30 代 (n=414)	83.3%	16.7%			
	40 代 (n=542)	84.9%	15.1%			
	50 代 (n=464)	87.1%	12.9%			
	60 代 (n=420)	92.1%	7.9%			
障がい者の支援	20 代 (n=368)	86.1%	14.0%	16.04	0.003	**
	30 代 (n=414)	88.2%	11.8%			
	40 代 (n=542)	88.2%	11.8%			
	50 代 (n=464)	92.0%	8.0%			
	60 代 (n=420)	93.3%	6.7%			
地域スポーツ振興	20 代 (n=368)	69.0%	31.0%	3.13	0.5362	
	30 代 (n=414)	68.4%	31.6%			
	40 代 (n=542)	66.6%	33.4%			
	50 代 (n=464)	65.3%	34.7%			
	60 代 (n=420)	70.2%	29.8%			

*** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05 † p<0.1

図表 6-4 犯罪被害者支援の必要性のクロス分析

			必要	不必要	χ^2 値	p値	
未婚	未婚（離死別含む）（n=836）	未婚（離死別含む）（n=836）	87.2%	12.8%	5.70	0.017	*
	既婚（n=1372）	既婚（n=1372）	90.5%	9.5%			
子どもの有無	子どもいない（n=1006）	子どもいない（n=1006）	86.9%	13.1%	10.54	0.001	**
	子どもいる（n=1202）	子どもいる（n=1202）	91.2%	8.8%			
警察への信頼	信頼できる（n=1269）	信頼できる（n=1269）	93.8%	6.2%	93.70	p<0.001	***
	どちらともいえない（n=638）	どちらともいえない（n=638）	86.8%	13.2%			
	信頼できない（n=301）	信頼できない（n=301）	75.1%	24.9%			
町内会・自治会加入	あてはまる（n=1278）	あてはまる（n=1278）	92.0%	8.0%	24.69	p<0.001	***
	あてはまらない（n=930）	あてはまらない（n=930）	85.4%	14.6%			
大学卒業（在学含む）	あてはまる（n=1078）	あてはまる（n=1078）	89.2%	10.8%	0.001		
	あてはまらない（n=1130）	あてはまらない（n=1130）	89.2%	10.8%			
新聞の購読	あてはまる（n=767）	あてはまる（n=767）	91.7%	8.3%	7.24	0.007	**
	あてはまらない（n=1441）	あてはまらない（n=1441）	87.9%	12.1%			
県市町村の広報紙閲覧	あてはまる（n=962）	あてはまる（n=962）	93.0%	7.0%	25.79	p<0.001	***
	あてはまらない（n=1246）	あてはまらない（n=1246）	86.3%	13.7%			
警察の広報紙閲覧	あてはまる（n=374）	あてはまる（n=374）	92.8%	7.2%	5.93	0.015	*
	あてはまらない（n=1834）	あてはまらない（n=1834）	88.5%	11.5%			
自分や家族の犯罪被害経験	あてはまる（n=64）	あてはまる（n=64）	87.5%	12.5%	0.20	0.652	
	あてはまらない（n=2144）	あてはまらない（n=2144）	89.3%	10.7%			

*** : $p<0.001$ ** : $p<0.01$ * : $p<0.05$ † : $p<0.1$

あとがき

本科目「社会調査実習」は、(一社)社会調査協会によって認定される社会調査士資格を取得するための必須科目となっており、社会調査協会の定めるところによれば、本科目(=社会調査協会が指定する「社会調査の実習を中心とする科目」)には、年間30回の授業を必要とする。「社会調査実習」はコミュニティ政策学部のカリキュラム編成上、前期に週2コマ、計30回という形をとることとなった。新型コロナウイルス感染症予防のため、パソコン機器や手指のアルコール消毒、ソーシャル・ディスタンスの確保、教室内の換気など、予防対策をとった上で行われた。履修対象は3・4年生であり、本年度は3年生5名が履修した。社会調査士資格を取得するためには、本科目のほかに、1年次から2年次の間に5つの科目を修得している必要がある。したがって本報告書の作成は、1年次から始まっていたと言っても過言ではない。

今年度の調査テーマは公的相談窓口の認知・信頼・相談意向であった。核家族化や晩婚化、高齢化社会の進行などに伴い、「日常的に近くに居る誰か」に相談するという機会が少なくなりつつあると考えられる。あるいは、誰にも言えない、言いづらい悩み事を抱える人々にとって、公的相談窓口は役に立つものである。近頃では電話相談だけでなく、LINEなどのSNSを利用した公的相談窓口の設置も進んでいる。しかし、そうした窓口の存在を知ってもらわねば利用してもらうことは出来ない。本調査で明らかとなった知見は、人々がより良く暮らしていけるように、公的相談窓口を活用することに繋がるものと期待できる。

本調査の実施にあたっては、はしがきで述べられた通り、多くの人々にご協力いただいた。千葉県環境生活部くらし安全推進課防犯対策室および千葉県警察本部犯罪被害者支援室の方々には、本調査実施にあたり、本学にお越しいただき学生へ特別講義を行っていただいた。実際に相談業務に携わる方々の貴重なお話は、我々にとって非常に有意義な時間となった。

本調査の結果が人々にとって少しでも役に立つことができれば幸いである。

令和4年3月

社会調査助手 渡辺 由希

基礎集計表

F1 あなたの性別をお選びください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男性	1138	51.5	51.5	51.5
	女性	1070	48.5	48.5	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

F2 あなたの年齢をお答えください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	20	22	1.0	1.0	1.0
	21	29	1.3	1.3	2.3
	22	28	1.3	1.3	3.6
	23	30	1.4	1.4	4.9
	24	35	1.6	1.6	6.5
	25	34	1.5	1.5	8.1
	26	44	2.0	2.0	10.1
	27	44	2.0	2.0	12.0
	28	46	2.1	2.1	14.1
	29	56	2.5	2.5	16.7
	30	40	1.8	1.8	18.5
	31	29	1.3	1.3	19.8
	32	40	1.8	1.8	21.6
	33	35	1.6	1.6	23.2
	34	44	2.0	2.0	25.2
	35	46	2.1	2.1	27.3
	36	41	1.9	1.9	29.1
	37	51	2.3	2.3	31.4
	38	42	1.9	1.9	33.3
	39	46	2.1	2.1	35.4
	40	48	2.2	2.2	37.6
	41	44	2.0	2.0	39.6
	42	48	2.2	2.2	41.8
	43	45	2.0	2.0	43.8
	44	53	2.4	2.4	46.2
	45	47	2.1	2.1	48.3
	46	62	2.8	2.8	51.1
	47	72	3.3	3.3	54.4
	48	56	2.5	2.5	56.9
	49	67	3.0	3.0	60.0
	50	63	2.9	2.9	62.8
	51	42	1.9	1.9	64.7
	52	50	2.3	2.3	67.0
	53	42	1.9	1.9	68.9
	54	48	2.2	2.2	71.1
	55	41	1.9	1.9	72.9
	56	45	2.0	2.0	75.0
	57	51	2.3	2.3	77.3
	58	41	1.9	1.9	79.1
	59	41	1.9	1.9	81.0
	60	51	2.3	2.3	83.3
	61	60	2.7	2.7	86.0
	62	53	2.4	2.4	88.4
	63	35	1.6	1.6	90.0
	64	40	1.8	1.8	91.8
	65	39	1.8	1.8	93.6
	66	41	1.9	1.9	95.4
	67	29	1.3	1.3	96.7
	68	34	1.5	1.5	98.3
	69	38	1.7	1.7	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

F3 あなたのお住いをお選びください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 千葉県	2208	100.0	100.0	100.0

F4 あなたは、現在ご結婚されていますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 未婚（離死別含む）	836	37.9	37.9	37.9
既婚	1372	62.1	62.1	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

F5 あなたには、現在お子様がいらっしゃいますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 子どもがいない	1006	45.6	45.6	45.6
子どもがいる	1202	54.4	54.4	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

F6 あなたの世帯年収（税込）を教えてください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 200万未満	170	7.7	7.7	7.7
200～400万	380	17.2	17.2	24.9
400～600万	434	19.7	19.7	44.6
600～800万	352	15.9	16.0	60.6
800～1000万	221	10.0	10.0	70.6
1000～1200万	96	4.3	4.4	75.0
1200～1500万	76	3.4	3.4	78.4
1500～2000万	26	1.2	1.2	79.6
2000万以上	20	0.9	0.9	80.5
わからない	430	19.5	19.5	100.0
合計	2205	99.9	100.0	
欠損 999	3	0.1		
合計	2208	100.0		

F7 あなたの個人年収（税込）をお答えください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 200万未満	771	34.9	35.0	35.0
200～400万	461	20.9	20.9	55.8
400～600万	346	15.7	15.7	71.5
600～800万	174	7.9	7.9	79.4
800～1000万	80	3.6	3.6	83.0
1000～1200万	31	1.4	1.4	84.5
1200～1500万	24	1.1	1.1	85.5
1500～2000万	9	0.4	0.4	85.9
2000万以上	6	0.3	0.3	86.2
わからない	304	13.8	13.8	100.0
合計	2206	99.9	100.0	
欠損 999	2	0.1		
合計	2208	100.0		

F8 あなたの現在のご職業をお答えください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
公務員	69	3.1	3.1	3.1
経営者・役員	33	1.5	1.5	4.6
会社員（事務系）	420	19.0	19.0	23.6
会社員（技術系）	263	11.9	11.9	35.6
会社員（その他）	314	14.2	14.2	49.8
自営業	84	3.8	3.8	53.6
自由業	36	1.6	1.6	55.2
専業主婦（主夫）	358	16.2	16.2	71.4
パート・アルバイト	355	16.1	16.1	87.5
学生	58	2.6	2.6	90.1
その他	24	1.1	1.1	91.2
無職	194	8.8	8.8	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

F9 現在のご自身の学生区分をお答えください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
専門学校生	8	0.4	13.8	13.8
大学生	46	2.1	79.3	93.1
大学院生	4	0.2	6.9	100.0
合計	58	2.6	100.0	
欠損	2150	97.4		
合計	2208	100.0		

01 もし以下のようなことがあった場合、あなたはそれぞれの人や機関に相談すると思いますか。相談すると思われるものすべてを選んで下さい。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
全体	家族や親戚	会社や学校の人	友人	警察	市町村役場などの相談窓口や専門機関	弁護士（会）など法律の専門家	カウンセラー等心の専門家	精神科医や心療内科医	TwitterなどのSNSに投稿して相談	誰にも相談しない
1 あなたや同居家族が、悪質商法で10万円くらいの被害にあったとしたら	(2208) 806 36.5 %	106 4.8	218 9.9	1627 73.7	469 21.2	418 18.9	12 0.5	18 0.8	41 1.9	195 8.8
2 あなたや同居家族が、知人から暴力を受けて全治10日くらいのケガをしたら	(2208) 868 39.3 %	150 6.8	242 11.0	1723 78.0	272 12.3	476 21.6	59 2.7	54 2.4	25 1.1	167 7.6
3 あなたや同居家族が、ネット上で個人情報を出されて誹謗中傷されたら	(2208) 794 36.0 %	123 5.6	277 12.5	1376 62.3	412 18.7	621 28.1	74 3.4	50 2.3	75 3.4	228 10.3
4 あなたや同居家族が、交通事故の被害に遭って大怪我をしたら	(2208) 934 42.3 %	222 10.1	250 11.3	1651 74.8	243 11.0	507 23.0	41 1.9	39 1.8	26 1.2	160 7.2
5 あなたや同居家族が、性被害に遭ったら	(2208) 695 31.5 %	66 3.0	162 7.3	1683 76.2	293 13.3	440 19.9	284 12.9	244 11.1	35 1.6	198 9.0
6 あなたや同居家族が、強盗被害に遭ったら	(2208) 819 37.1 %	121 5.5	206 9.3	1846 83.6	174 7.9	263 11.9	26 1.2	23 1.0	22 1.0	147 6.7
7 あなたや同居家族が、つきまといなどのストーカー行為をされたら	(2208) 843 38.2 %	164 7.4	289 13.1	1781 80.7	320 14.5	333 15.1	49 2.2	33 1.5	38 1.7	163 7.4
8 近所で、虐待されているのではないかと思われる子どもを見かけたら	(2208) 678 30.7 %	123 5.6	203 9.2	1235 55.9	892 40.4	86 3.9	38 1.7	20 0.9	34 1.5	235 10.6
9 近所で、DV被害ではないかと思われる人を見かけたら	(2208) 668 30.3 %	106 4.8	212 9.6	1258 57.0	739 33.5	108 4.9	36 1.6	22 1.0	31 1.4	262 11.9

Q2 犯罪被害や悩みごとを相談する窓口として、知っているものすべてを選んでください。(いくつでも)

1 千葉県警察の「電話de詐欺」相談窓口

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	1568	71.0	71.0	71.0
	知っている	640	29.0	29.0	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

2 千葉県警察少年センターの相談窓口

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	1878	85.1	85.1	85.1
	知っている	330	14.9	14.9	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

3 市区町村役場の犯罪被害の相談窓口

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	1744	79.0	79.0	79.0
	知っている	464	21.0	21.0	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

4 県や市の消費生活相談窓口（消費者センターなど）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	1432	64.9	64.9	64.9
	知っている	776	35.1	35.1	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

5 法テラスの相談窓口

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	1623	73.5	73.5	73.5
	知っている	585	26.5	26.5	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

6 千葉県弁護士会の相談窓口

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	1891	85.6	85.6	85.6
	知っている	317	14.4	14.4	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

7 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター「#8891（はやくワンストップ）」

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	2116	95.8	95.8	95.8
	知っている	92	4.2	4.2	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

8 警察相談専用電話「#9110」

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	1908	86.4	86.4	86.4
	知っている	300	13.6	13.6	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

9 性犯罪被害相談窓口（警察庁）「#8103（ハートさん）」

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	2124	96.2	96.2	96.2
	知っている	84	3.8	3.8	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

10 消費者ホットライン（消費者庁）「188」

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	1780	80.6	80.6	80.6
	知っている	428	19.4	19.4	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

11 児童相談所虐待対応ダイヤル「189」

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	1924	87.1	87.1	87.1
	知っている	284	12.9	12.9	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

12 DV相談ナビ「#8008」

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	2098	95.0	95.0	95.0
	知っている	110	5.0	5.0	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

13 子どもの人権110番

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	1734	78.5	78.5	78.5
	知っている	474	21.5	21.5	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

14 いのちの電話（一般社団法人 日本いのちの電話連盟）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	1479	67.0	67.0	67.0
	知っている	729	33.0	33.0	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

15 どれも知らない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	1572	71.2	71.2	71.2
	あてはまる	636	28.8	28.8	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

Q3 あなたは、以下の機関や職業を信頼できますか。

1 自衛隊

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼できる	392	17.8	17.8	17.8
	どちらかといえば信頼できる	833	37.7	37.7	55.5
	どちらともいえない	767	34.7	34.7	90.2
	どちらかといえば信頼できない	109	4.9	4.9	95.2
	信頼できない	107	4.8	4.8	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

2 マスコミ・報道機関

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼できる	22	1.0	1.0	1.0
	どちらかといえば信頼できる	170	7.7	7.7	8.7
	どちらともいえない	834	37.8	37.8	46.5
	どちらかといえば信頼できない	569	25.8	25.8	72.2
	信頼できない	613	27.8	27.8	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

3 医療機関

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼できる	341	15.4	15.4
	どちらかといえば信頼できる	1058	47.9	63.4
	どちらともいえない	642	29.1	92.4
	どちらかといえば信頼できない	77	3.5	95.9
	信頼できない	90	4.1	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

4 銀行

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼できる	165	7.5	7.5
	どちらかといえば信頼できる	712	32.2	39.7
	どちらともいえない	969	43.9	83.6
	どちらかといえば信頼できない	212	9.6	93.2
	信頼できない	150	6.8	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

5 学校

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼できる	80	3.6	3.6
	どちらかといえば信頼できる	485	22.0	25.6
	どちらともいえない	1071	48.5	74.1
	どちらかといえば信頼できない	323	14.6	88.7
	信頼できない	249	11.3	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

6 警察

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼できる	292	13.2	13.2
	どちらかといえば信頼できる	977	44.2	57.5
	どちらともいえない	638	28.9	86.4
	どちらかといえば信頼できない	182	8.2	94.6
	信頼できない	119	5.4	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

7 市町村役場

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼できる	120	5.4	5.4
	どちらかといえば信頼できる	650	29.4	34.9
	どちらともいえない	1012	45.8	80.7
	どちらかといえば信頼できない	243	11.0	91.7
	信頼できない	183	8.3	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

8 市町村議会議員

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼できる	36	1.6	1.6
	どちらかといえば信頼できる	230	10.4	12.0
	どちらともいえない	944	42.8	54.8
	どちらかといえば信頼できない	507	23.0	77.8
	信頼できない	491	22.2	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

9 町内会・自治会

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼できる	61	2.8	2.8
	どちらかといえば信頼できる	376	17.0	19.8
	どちらともいえない	1139	51.6	71.4
	どちらかといえば信頼できない	344	15.6	87.0
	信頼できない	288	13.0	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

10 弁護士

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼できる	310	14.0	14.0
	どちらかといえば信頼できる	964	43.7	57.7
	どちらともいえない	724	32.8	90.5
	どちらかといえば信頼できない	108	4.9	95.4
	信頼できない	102	4.6	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

11 裁判所

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼できる	336	15.2	15.2
	どちらかといえば信頼できる	882	39.9	55.2
	どちらともいえない	757	34.3	89.4
	どちらかといえば信頼できない	122	5.5	95.0
	信頼できない	111	5.0	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

12 国会議員

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼できる	32	1.4	1.4
	どちらかといえば信頼できる	151	6.8	8.3
	どちらともいえない	759	34.4	42.7
	どちらかといえば信頼できない	524	23.7	66.4
	信頼できない	742	33.6	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

13 大企業

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼できる	67	3.0	3.0
	どちらかといえば信頼できる	445	20.2	23.2
	どちらともいえない	1180	53.4	76.6
	どちらかといえば信頼できない	297	13.5	90.1
	信頼できない	219	9.9	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

14 政府

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼できる	57	2.6	2.6
	どちらかといえば信頼できる	304	13.8	16.3
	どちらともいえない	829	37.5	53.9
	どちらかといえば信頼できない	465	21.1	75.0
	信頼できない	553	25.0	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

Q4 政府や自治体などの政策として、以下のそれぞれについての必要性をおたずねします。

1 女性を性犯罪から守るための取り組み

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要である	1151	52.1	52.1	52.1
	どちらかという必要である	853	38.6	38.6	90.8
	どちらかという必要ない	125	5.7	5.7	96.4
	必要ない	79	3.6	3.6	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

2 子どもを犯罪の被害から守るための取り組み

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要である	1290	58.4	58.4	58.4
	どちらかという必要である	755	34.2	34.2	92.6
	どちらかという必要ない	93	4.2	4.2	96.8
	必要ない	70	3.2	3.2	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

3 高齢者を犯罪の被害から守るための取り組み

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要である	968	43.8	43.8	43.8
	どちらかという必要である	978	44.3	44.3	88.1
	どちらかという必要ない	160	7.2	7.2	95.4
	必要ない	102	4.6	4.6	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

4 外国籍の住民との共生のための取り組み

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要である	605	27.4	27.4	27.4
	どちらかという必要である	1132	51.3	51.3	78.7
	どちらかという必要ない	313	14.2	14.2	92.8
	必要ない	158	7.2	7.2	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

5 刑務所を出所した人の更生のための取り組み

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要である	664	30.1	30.1	30.1
	どちらかという必要である	1077	48.8	48.8	78.8
	どちらかという必要ない	296	13.4	13.4	92.3
	必要ない	171	7.7	7.7	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

6 L G B T（性的少数者）のための取り組み

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要である	743	33.7	33.7	33.7
	どちらかという必要である	985	44.6	44.6	78.3
	どちらかという必要ない	325	14.7	14.7	93.0
	必要ない	155	7.0	7.0	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

7 犯罪被害者を支援するための取り組み

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要である	1070	48.5	48.5	48.5
	どちらかという必要である	900	40.8	40.8	89.2
	どちらかという必要ない	149	6.7	6.7	96.0
	必要ない	89	4.0	4.0	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

8 子育て世帯を支援するための取り組み

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
必要である	1061	48.1	48.1	48.1
どちらかという必要である	885	40.1	40.1	88.1
どちらかという必要ない	169	7.7	7.7	95.8
必要ない	93	4.2	4.2	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

9 ひとり親世帯を支援するための取り組み

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
必要である	979	44.3	44.3	44.3
どちらかという必要である	936	42.4	42.4	86.7
どちらかという必要ない	197	8.9	8.9	95.7
必要ない	96	4.3	4.3	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

10 障がい者を支援するための取り組み

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
必要である	1067	48.3	48.3	48.3
どちらかという必要である	912	41.3	41.3	89.6
どちらかという必要ない	148	6.7	6.7	96.3
必要ない	81	3.7	3.7	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

11 地域スポーツ振興のための取り組み

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
必要である	448	20.3	20.3	20.3
どちらかという必要である	1048	47.5	47.5	67.8
どちらかという必要ない	493	22.3	22.3	90.1
必要ない	219	9.9	9.9	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

Q5 あなたは、次の意見についてどのようにお考えでしょうか。あてはまるものひとつをお選びください。

1 対策すれば犯罪の被害にはあわない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思う	94	4.3	4.3	4.3
どちらかというと思う	671	30.4	30.4	34.6
どちらかというと思わない	837	37.9	37.9	72.6
そう思わない	606	27.4	27.4	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

2 自分は犯罪の被害にあわないよう行動できる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思う	117	5.3	5.3	5.3
どちらかというと思う	947	42.9	42.9	48.2
どちらかというと思わない	831	37.6	37.6	85.8
そう思わない	313	14.2	14.2	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

3 何か防犯対策をしてみたい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思う	426	19.3	19.3	19.3
どちらかというと思う	1305	59.1	59.1	78.4
どちらかというと思わない	372	16.8	16.8	95.2
そう思わない	105	4.8	4.8	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

4 犯罪の被害にあうかどうかは運次第だ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思う	312	14.1	14.1	14.1
どちらかというと思う	1093	49.5	49.5	63.6
どちらかというと思わない	595	26.9	26.9	90.6
思わない	208	9.4	9.4	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

5 隣近所の問題は自分たちで解決できる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思う	90	4.1	4.1	4.1
どちらかというと思う	586	26.5	26.5	30.6
どちらかというと思わない	1060	48.0	48.0	78.6
思わない	472	21.4	21.4	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

6 ほとんどの人は信頼できる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思う	82	3.7	3.7	3.7
どちらかというと思う	736	33.3	33.3	37.0
どちらかというと思わない	894	40.5	40.5	77.5
思わない	496	22.5	22.5	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

7 ほとんどの隣近所の人は信頼できる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思う	89	4.0	4.0	4.0
どちらかというと思う	832	37.7	37.7	41.7
どちらかというと思わない	846	38.3	38.3	80.0
思わない	441	20.0	20.0	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

8 隣近所の人たちは困ったときに助けてくれる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思う	100	4.5	4.5	4.5
どちらかというと思う	754	34.1	34.1	38.7
どちらかというと思わない	918	41.6	41.6	80.3
思わない	436	19.7	19.7	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

9 警察などに相談するとしたら、電話よりもメールの方がしやすい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思う	231	10.5	10.5	10.5
どちらかというと思う	649	29.4	29.4	39.9
どちらかというと思わない	857	38.8	38.8	78.7
思わない	471	21.3	21.3	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

10 日頃、自身や同居家族が犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じることもある

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思う	231	10.5	10.5	10.5
どちらかというと思う	897	40.6	40.6	51.1
どちらかというと思わない	836	37.9	37.9	88.9
思わない	244	11.1	11.1	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

11 こころの不調を感じたらカウンセラー等心の専門家に相談したい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思う	267	12.1	12.1	12.1
どちらかというと思う	960	43.5	43.5	55.6
どちらかというと思わない	724	32.8	32.8	88.4
そう思わない	257	11.6	11.6	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

12 犯罪に対する日本の裁判所の判決は、軽すぎると思う

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思う	686	31.1	31.1	31.1
どちらかというと思う	968	43.8	43.8	74.9
どちらかというと思わない	459	20.8	20.8	95.7
そう思わない	95	4.3	4.3	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

13 軽微な犯罪であっても、厳しく取り締まるべきだと思う

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思う	596	27.0	27.0	27.0
どちらかというと思う	1092	49.5	49.5	76.4
どちらかというと思わない	419	19.0	19.0	95.4
そう思わない	101	4.6	4.6	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

14 近所づきあいはさかんな方だと思う

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思う	78	3.5	3.5	3.5
どちらかというと思う	486	22.0	22.0	25.5
どちらかというと思わない	900	40.8	40.8	66.3
そう思わない	744	33.7	33.7	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

15 住んでいる地域の治安はよいほうだと思う

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思う	286	13.0	13.0	13.0
どちらかというと思う	1306	59.1	59.1	72.1
どちらかというと思わない	470	21.3	21.3	93.4
そう思わない	146	6.6	6.6	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

Q6 あなたご自身についておたずねします。

1 同居している家族に、12歳未満の女の子がいる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまる	258	11.7	11.7	11.7
あてはまらない	1950	88.3	88.3	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

2 同居している家族に、12歳未満の男の子がいる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまる	255	11.5	11.5	11.5
あてはまらない	1953	88.5	88.5	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

3 同居している家族に、12歳以上18歳未満の女子がいる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまる	150	6.8	6.8	6.8
あてはまらない	2058	93.2	93.2	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

4 同居している家族に、１２歳以上１８歳未満の男子がいる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	178	8.1	8.1	8.1
	あてはまらない	2030	91.9	91.9	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

5 同居している家族に、あなたを含めて１８歳以上３０歳未満の女子がいる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	350	15.9	15.9	15.9
	あてはまらない	1858	84.1	84.1	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

6 同居している家族に、あなたを含めて１８歳以上３０歳未満の男子がいる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	343	15.5	15.5	15.5
	あてはまらない	1865	84.5	84.5	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

7 同居している家族に、あなたを含めて６５歳以上の人がいる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	545	24.7	24.7	24.7
	あてはまらない	1663	75.3	75.3	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

8 同居のご家族は、あなたを含めて全員６５歳以上である

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	116	5.3	5.3	5.3
	あてはまらない	2092	94.7	94.7	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

9 一人暮らしである

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	336	15.2	15.2	15.2
	あてはまらない	1872	84.8	84.8	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

10 持ち家に住んでいる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	1414	64.0	64.0	64.0
	あてはまらない	794	36.0	36.0	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

11 一戸建てに住んでいる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	1080	48.9	48.9	48.9
	あてはまらない	1128	51.1	51.1	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

12 現在の地域に１０年以上住んでいる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	1351	61.2	61.2	61.2
	あてはまらない	857	38.8	38.8	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

13 町内会・自治会（マンション管理組合を含む）に加入している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	1278	57.9	57.9	57.9
	あてはまらない	930	42.1	42.1	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

14 過去1年間に、あなたや同居家族が犯罪の被害にあったことがある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	64	2.9	2.9	2.9
	あてはまらない	2144	97.1	97.1	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

15 大学を卒業している（在学中を含む）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	1078	48.8	48.8	48.8
	あてはまらない	1130	51.2	51.2	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

Q7 あなたの情報環境などについておたずねします。

1 自分専用のパソコン（タブレットを含む）をもっている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	1488	67.4	67.4	67.4
	あてはまらない	720	32.6	32.6	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

2 家族共用のパソコンをもっている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	988	44.7	44.7	44.7
	あてはまらない	1220	55.3	55.3	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

3 スマートフォンをもっている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	2043	92.5	92.5	92.5
	あてはまらない	165	7.5	7.5	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

4 自宅に固定電話がある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	1372	62.1	62.1	62.1
	あてはまらない	836	37.9	37.9	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

5 テレビのニュースをほぼ毎日見ている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	1653	74.9	74.9	74.9
	あてはまらない	555	25.1	25.1	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

6 新聞を購読している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	767	34.7	34.7	34.7
	あてはまらない	1441	65.3	65.3	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

7 県や市町村の広報紙には目をとおしている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	962	43.6	43.6	43.6
	あてはまらない	1246	56.4	56.4	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

8 警察の広報紙には目をとっている

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	374	16.9	16.9
	あてはまらない	1834	83.1	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

9 twitterを利用している

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	907	41.1	41.1
	あてはまらない	1301	58.9	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

10 フェイスブックを利用している

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	626	28.4	28.4
	あてはまらない	1582	71.6	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

11 インスタグラムを利用している

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	835	37.8	37.8
	あてはまらない	1373	62.2	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

12 LINEを利用している

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	1728	78.3	78.3
	あてはまらない	480	21.7	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

13 よく読書する方である

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	704	31.9	31.9
	あてはまらない	1504	68.1	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

14 ふだん、電車で通勤・通学している

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	820	37.1	37.1
	あてはまらない	1388	62.9	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

15 ふだん、自動車を運転している

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	1029	46.6	46.6
	あてはまらない	1179	53.4	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

Q8 以下のそれぞれの文章について、あなたはどのように思いますか。

1 私には困ったときにそばにいてくれる人がいる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にそう思う	536	24.3	24.3
	そう思う	1052	47.6	71.9
	そう思わない	395	17.9	89.8
	まったくそう思わない	225	10.2	100.0
	合計	2208	100.0	100.0

2 私には喜びと悲しみを分かち合える人がある

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
非常にそう思う	500	22.6	22.6	22.6
そう思う	1097	49.7	49.7	72.3
そう思わない	397	18.0	18.0	90.3
まったくそう思わない	214	9.7	9.7	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

3 私の家族は本当に私を助けてくれる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
非常にそう思う	659	29.8	29.8	29.8
そう思う	1057	47.9	47.9	77.7
そう思わない	332	15.0	15.0	92.8
まったくそう思わない	160	7.2	7.2	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

4 必要な時に、私の家族は私の心の支えとなるような手を差し伸べてくれる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
非常にそう思う	586	26.5	26.5	26.5
そう思う	1048	47.5	47.5	74.0
そう思わない	388	17.6	17.6	91.6
まったくそう思わない	186	8.4	8.4	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

5 私には真の慰めの源となるような人がある

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
非常にそう思う	425	19.2	19.2	19.2
そう思う	910	41.2	41.2	60.5
そう思わない	583	26.4	26.4	86.9
まったくそう思わない	290	13.1	13.1	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

6 私の友人たちは本当に私を助けてくれようとする

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
非常にそう思う	270	12.2	12.2	12.2
そう思う	983	44.5	44.5	56.7
そう思わない	651	29.5	29.5	86.2
まったくそう思わない	304	13.8	13.8	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

7 色々なことがうまくいかない時に、私は友人たちをあてにすることができる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
非常にそう思う	232	10.5	10.5	10.5
そう思う	820	37.1	37.1	47.6
そう思わない	759	34.4	34.4	82.0
まったくそう思わない	397	18.0	18.0	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

8 私は家族と自分の問題について話し合うことができる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
非常にそう思う	456	20.7	20.7	20.7
そう思う	1073	48.6	48.6	69.2
そう思わない	457	20.7	20.7	89.9
まったくそう思わない	222	10.1	10.1	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

9 私には喜びと悲しみを分かちあえる友人がいる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にそう思う	342	15.5	15.5	15.5
	そう思う	977	44.2	44.2	59.7
	そう思わない	563	25.5	25.5	85.2
	まったくそう思わない	326	14.8	14.8	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

10 私には私の気持ちについて何かと気づかってくれる人がある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にそう思う	422	19.1	19.1	19.1
	そう思う	1061	48.1	48.1	67.2
	そう思わない	518	23.5	23.5	90.6
	まったくそう思わない	207	9.4	9.4	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

11 私の家族は私が何か決めるときに、喜んで助けてくれる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にそう思う	492	22.3	22.3	22.3
	そう思う	1085	49.1	49.1	71.4
	そう思わない	445	20.2	20.2	91.6
	まったくそう思わない	186	8.4	8.4	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

12 私は自分の問題について友人たちと話すことができる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にそう思う	296	13.4	13.4	13.4
	そう思う	959	43.4	43.4	56.8
	そう思わない	620	28.1	28.1	84.9
	まったくそう思わない	333	15.1	15.1	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

Q9 以下のそれぞれの意見について、あなたのご意見をおたずねします。

1 この世の中では、がんばった人には、確実に報われるときがくる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	174	7.9	7.9	7.9
	どちらかというにあてはまる	596	27.0	27.0	34.9
	どちらともいえない	902	40.9	40.9	75.7
	どちらかというにあてはまらない	343	15.5	15.5	91.3
	あてはまらない	193	8.7	8.7	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

2 この世の中では、悪いことをした人には、必ずその報いがおとずれる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	295	13.4	13.4	13.4
	どちらかというにあてはまる	623	28.2	28.2	41.6
	どちらともいえない	841	38.1	38.1	79.7
	どちらかというにあてはまらない	281	12.7	12.7	92.4
	あてはまらない	168	7.6	7.6	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

3 この世の中では、誰がどのくらい努力したかと結果を出せるかどうかには、関係がない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまる	279	12.6	12.6	12.6
どちらかというにあてはまる	615	27.9	27.9	40.5
どちらともいえない	945	42.8	42.8	83.3
どちらかというにあてはまらない	275	12.5	12.5	95.7
あてはまらない	94	4.3	4.3	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

4 この世の中では、上手くぬげがけする人は、まじめな人よりも格段に得できる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまる	342	15.5	15.5	15.5
どちらかというにあてはまる	753	34.1	34.1	49.6
どちらともいえない	848	38.4	38.4	88.0
どちらかというにあてはまらない	186	8.4	8.4	96.4
あてはまらない	79	3.6	3.6	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

5 この世の中では、ずる賢く立ちまわる人は、不当なことをしても罰を回避できる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまる	286	13.0	13.0	13.0
どちらかというにあてはまる	720	32.6	32.6	45.6
どちらともいえない	857	38.8	38.8	84.4
どちらかというにあてはまらない	244	11.1	11.1	95.4
あてはまらない	101	4.6	4.6	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

6 この世の中では、非道なことをした人の多くは、責任を問われていない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまる	294	13.3	13.3	13.3
どちらかというにあてはまる	685	31.0	31.0	44.3
どちらともいえない	920	41.7	41.7	86.0
どちらかというにあてはまらない	236	10.7	10.7	96.7
あてはまらない	73	3.3	3.3	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

7 この世の中では、大きい利益を挙げている人の多くが、卑劣な方法を使っている

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまる	174	7.9	7.9	7.9
どちらかというにあてはまる	452	20.5	20.5	28.4
どちらともいえない	1080	48.9	48.9	77.3
どちらかというにあてはまらない	376	17.0	17.0	94.3
あてはまらない	126	5.7	5.7	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

8 この世の中では、高い地位を得ている人の多くは、実力を伴っていない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
あてはまる	191	8.7	8.7	8.7
どちらかというにあてはまる	465	21.1	21.1	29.7
どちらともいえない	1115	50.5	50.5	80.2
どちらかというにあてはまらない	326	14.8	14.8	95.0
あてはまらない	111	5.0	5.0	100.0
合計	2208	100.0	100.0	

9 この世の中では、立派な成果を出した人の多くは、正当に評価されていない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	201	9.1	9.1	9.1
	どちらかというにあてはまる	582	26.4	26.4	35.5
	どちらともいえない	1119	50.7	50.7	86.1
	どちらかというにあてはまらない	235	10.6	10.6	96.8
	あてはまらない	71	3.2	3.2	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

10 この世の中では、正しく生きている人の多くが、そうでない人よりも損している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	345	15.6	15.6	15.6
	どちらかというにあてはまる	700	31.7	31.7	47.3
	どちらともいえない	875	39.6	39.6	87.0
	どちらかというにあてはまらない	219	9.9	9.9	96.9
	あてはまらない	69	3.1	3.1	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

Q10 あなたご自身についておたずねします。

1 自分が他人にどう思われているのか気になる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にあてはまる	249	11.3	11.3	11.3
	あてはまる	741	33.6	33.6	44.8
	どちらともいえない	750	34.0	34.0	78.8
	あてはまらない	330	14.9	14.9	93.8
	全くあてはまらない	138	6.3	6.3	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

2 世間体など気にならない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にあてはまる	107	4.8	4.8	4.8
	あてはまる	394	17.8	17.8	22.7
	どちらともいえない	876	39.7	39.7	62.4
	あてはまらない	612	27.7	27.7	90.1
	全くあてはまらない	219	9.9	9.9	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

3 人に会う時、どんなふうにするまえば良いのか気になる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にあてはまる	194	8.8	8.8	8.8
	あてはまる	863	39.1	39.1	47.9
	どちらともいえない	793	35.9	35.9	83.8
	あてはまらない	249	11.3	11.3	95.1
	全くあてはまらない	109	4.9	4.9	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

4 自分の発言を他人がどう受け取ったか気になる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にあてはまる	278	12.6	12.6	12.6
	あてはまる	909	41.2	41.2	53.8
	どちらともいえない	715	32.4	32.4	86.1
	あてはまらない	212	9.6	9.6	95.7
	全くあてはまらない	94	4.3	4.3	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

5 人に見られていると、つかっこうをつけてしまう

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にあてはまる	110	5.0	5.0	5.0
	あてはまる	601	27.2	27.2	32.2
	どちらともいえない	889	40.3	40.3	72.5
	あてはまらない	445	20.2	20.2	92.6
	全くあてはまらない	163	7.4	7.4	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

6 自分の容姿を気にするほうだ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にあてはまる	229	10.4	10.4	10.4
	あてはまる	809	36.6	36.6	47.0
	どちらともいえない	774	35.1	35.1	82.1
	あてはまらない	299	13.5	13.5	95.6
	全くあてはまらない	97	4.4	4.4	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

7 自分についてのうわさに関心がある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にあてはまる	156	7.1	7.1	7.1
	あてはまる	609	27.6	27.6	34.6
	どちらともいえない	842	38.1	38.1	72.8
	あてはまらない	416	18.8	18.8	91.6
	全くあてはまらない	185	8.4	8.4	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

8 人前で何かする時、自分のしぐさや姿が気になる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にあてはまる	190	8.6	8.6	8.6
	あてはまる	763	34.6	34.6	43.2
	どちらともいえない	803	36.4	36.4	79.5
	あてはまらない	332	15.0	15.0	94.6
	全くあてはまらない	120	5.4	5.4	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

9 他人からの評価を考えながら行動する

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にあてはまる	136	6.2	6.2	6.2
	あてはまる	643	29.1	29.1	35.3
	どちらともいえない	881	39.9	39.9	75.2
	あてはまらない	399	18.1	18.1	93.3
	全くあてはまらない	149	6.7	6.7	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

10 初対面の人に、自分の印象を悪くしないように気づかう

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にあてはまる	282	12.8	12.8	12.8
	あてはまる	982	44.5	44.5	57.2
	どちらともいえない	716	32.4	32.4	89.7
	あてはまらない	152	6.9	6.9	96.6
	全くあてはまらない	76	3.4	3.4	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

11 人の目に映る自分の姿に心を配る

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にあてはまる	175	7.9	7.9	7.9
	あてはまる	802	36.3	36.3	44.2
	どちらともいえない	854	38.7	38.7	82.9
	あてはまらない	275	12.5	12.5	95.4
	全くあてはまらない	102	4.6	4.6	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

12 私の暮らし向きは、人並み以上だと思う

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にあてはまる	96	4.3	4.3	4.3
	あてはまる	467	21.2	21.2	25.5
	どちらともいえない	1062	48.1	48.1	73.6
	あてはまらない	395	17.9	17.9	91.5
	全くあてはまらない	188	8.5	8.5	100.0
	合計	2208	100.0	100.0	

調 査 票

[必須]

F1 あなたの性別をお選びください。（1つだけ）

☐ 男性

☐ 女性

[必須]

F2 あなたの年齢をお答えください。

歳 (半角数字)

[必須]

F3 あなたのお住まいをお選びください。（1つだけ）

■北海道地方

☐ 北海道

■東北地方

☐ 青森県

☐ 岩手県

☐ 宮城県

☐ 秋田県

☐ 山形県

☐ 福島県

■関東地方

☐ 茨城県

☐ 栃木県

☐ 群馬県

☐ 埼玉県

☐ 千葉県

☐ 東京都

☐ 神奈川県

■中部地方

☐ 新潟県

☐ 富山県

☐ 石川県

☐ 福井県

■近畿地方

☐ 滋賀県

☐ 京都府

☐ 大阪府

☐ 兵庫県

☐ 奈良県

☐ 和歌山県

■中国地方

☐ 鳥取県

☐ 島根県

☐ 岡山県

☐ 広島県

☐ 山口県

■四国地方

☐ 徳島県

☐ 香川県

☐ 愛媛県

☐ 高知県

■九州地方

☐ 福岡県

☐ 佐賀県

☐ 長崎県

☐ 山梨県	☐ 熊本県
☐ 長野県	☐ 大分県
☐ 岐阜県	☐ 宮崎県
☐ 静岡県	☐ 鹿児島県
☐ 愛知県	☐ 沖縄県
☐ 三重県	

[必須]

F4 あなたは、現在ご結婚されていますか。

☐ 未婚（離別・死別含む）
☐ 既婚

[必須]

F5 あなたには、現在お子様がいらっしゃいますか。

☐ 子供がいない
☐ 子供がいる

F6 あなたの世帯年収（税込）を教えてください。（ひとつだけ）

☐ 200万円未満
☐ 200～400万円未満
☐ 400～600万円未満
☐ 600～800万円未満
☐ 800～1000万円未満
☐ 1000～1200万円未満
☐ 1200～1500万円未満
☐ 1500～2000万円未満
☐ 2000万円以上
☐ わからない

F7 あなたの個人年収（税込）をお答えください。（ひとつだけ）

- ☐ 200万円未満
- ☐ 200～400万円未満
- ☐ 400～600万円未満
- ☐ 600～800万円未満
- ☐ 800～1000万円未満
- ☐ 1000～1200万円未満
- ☐ 1200～1500万円未満
- ☐ 1500～2000万円未満
- ☐ 2000万円以上
- ☐ わからない

[必須]

F8 あなたの現在のご職業をお答えください。

- ☐ 公務員
- ☐ 経営者・役員
- ☐ 会社員(事務系)
- ☐ 会社員(技術系)
- ☐ 会社員(その他)
- ☐ 自営業
- ☐ 自由業
- ☐ 専業主婦（主夫）
- ☐ パート・アルバイト
- ☐ 学生
- ☐ その他
- ☐ 無職

学生の方にお伺いします。

[必須]

F9 現在のご自身の学生区分をお答えください。

☐ 小学生
☐ 中学生
☐ 高校生・高専生
☐ 専門学校生
☐ 短大生
☐ 大学生
☐ 大学院生
☐ その他学生

[必須]

Q1 もし以下のようなことがあった場合、あなたはそれぞれの人や機関に相談すると思いますか。相談すると思われるものすべてを選んで下さい。（いくつでも）

		家族や親戚	会社や学校の人	友人	警察	市町村役場などの相談窓口や専門機関	弁護士（会）など法律の専門家	カウンセラー等の心の専門家	精神科医や心療内科医	TwitterなどのSNSに投稿して相談	誰にも相談しない
あなたや同居家族が、悪質商法で10万円くらいの被害にあったとしたら	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
あなたや同居家族が、知人から暴力を受けて全治10日くらいのケガをしたら	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
あなたや同居家族が、ネット上で個人情報を出されて誹謗中傷されたら	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
あなたや同居家族が、交通事故の被害に遭って大怪我をしたら	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
あなたや同居家族が、性被害に遭ったら	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
あなたや同居家族が、強盗被害に遭ったら	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
あなたや同居家族が、つきまといなどのストーカー行為をされたら	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
近所で、虐待されているのではないかとと思われる子どもを見かけたら	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
近所で、DV被害ではないかとと思われる人を見かけたら	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

[必須]

Q2 犯罪被害や悩みごとを相談する窓口として、知っているものすべてを選んでください。（いくつでも）

☐	千葉県警察の「電話de詐欺」相談窓口
☐	千葉県警察少年センターの相談窓口
☐	市区町村役場の犯罪被害の相談窓口
☐	県や市の消費生活相談窓口（消費者センターなど）
☐	法テラスの相談窓口
☐	千葉県弁護士会の相談窓口
☐	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター「#8891（はやくワンストップ）」
☐	警察相談専用電話「#9110」
☐	性犯罪被害相談窓口（警察庁）「#8103（ハートさん）」
☐	消費者ホットライン（消費者庁）「188」
☐	児童相談所虐待対応ダイヤル「189」
☐	DV相談ナビ「#8008」
☐	子どもの人権110番
☐	いのちの電話（一般社団法人 日本いのちの電話連盟）
☐	どれも知らない

[必須]

Q3 あなたは、以下の機関や職業を信頼できますか。

		信頼できる	どちらかといえば信頼できる	どちらかといえば信頼できない	信頼できない
自衛隊	→	☐	☐	☐	☐
マスコミ・報道機関	→	☐	☐	☐	☐
医療機関	→	☐	☐	☐	☐
銀行	→	☐	☐	☐	☐
学校	→	☐	☐	☐	☐
警察	→	☐	☐	☐	☐

市町村役場	→	●	●	●	●	●
市町村議会議員	→	●	●	●	●	●
町内会・自治会	→	●	●	●	●	●
弁護士	→	●	●	●	●	●
裁判所	→	●	●	●	●	●
国会議員	→	●	●	●	●	●
大企業	→	●	●	●	●	●
政府	→	●	●	●	●	●

[必須]

Q4 政府や自治体などの政策として、以下のそれぞれについての必要性をおたずねします。

		必要である	どちらかという必要である	どちらかという必要ない	必要ない
女性を性犯罪から守るための取り組み	→	●	●	●	●
子どもを犯罪の被害から守るための取り組み	→	●	●	●	●
高齢者を犯罪の被害から守るための取り組み	→	●	●	●	●
外国籍の住民との共生のための取り組み	→	●	●	●	●
刑務所を出所した人の更生のための取り組み	→	●	●	●	●
LGBT（性的少数者）のための取り組み	→	●	●	●	●
犯罪被害者を支援するための取り組み	→	●	●	●	●
子育て世帯を支援するための取り組み	→	●	●	●	●
ひとり親世帯を支援するための取り組み	→	●	●	●	●
障がい者を支援するための取り組み	→	●	●	●	●
地域スポーツ振興のための取り組み	→	●	●	●	●

【必須】

Q5 あなたは、次の意見についてどのようにお考えでしょうか。あてはまるものひとつをお選びください。

		そう思う	どちらかというそう思う	どちらかというそう思わない	そう思わない
対策をすれば犯罪の被害にはあわない	→	☐	☐	☐	☐
自分は犯罪の被害にあわないよう行動できる	→	☐	☐	☐	☐
何か防犯対策をしてみたい	→	☐	☐	☐	☐
犯罪の被害にあうかどうかは運次第だ	→	☐	☐	☐	☐
隣近所の問題は自分たちで解決できる	→	☐	☐	☐	☐
ほとんどの人は信頼できる	→	☐	☐	☐	☐
ほとんどの隣近所の人は信頼できる	→	☐	☐	☐	☐
隣近所の人たちは困ったときに助けてくれる	→	☐	☐	☐	☐
警察などに相談するとしたら、電話よりもメールの方がしやすい	→	☐	☐	☐	☐
日頃、自身や同居家族が犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じることもある	→	☐	☐	☐	☐
こころの不調を感じたらカウンセラー等心の専門家に相談したい	→	☐	☐	☐	☐
犯罪に対する日本の裁判所の判決は、軽すぎると思う	→	☐	☐	☐	☐
軽微な犯罪であっても、厳しく取り締まるべきだと思う	→	☐	☐	☐	☐
近所づきあいはさかんな方だと思う	→	☐	☐	☐	☐
住んでいる地域の治安はよいほうだと思う	→	☐	☐	☐	☐

【必須】

Q6 あなたご自身についておたずねします。

		あてはまる	あてはまらない
同居している家族に、12歳未満の女の子がいる	→	☐	☐
同居している家族に、12歳未満の男の子がいる	→	☐	☐
同居している家族に、12歳以上18歳未満の女子がいる	→	☐	☐
同居している家族に、12歳以上18歳未満の男子がいる	→	☐	☐
同居している家族に、あなたを含めて18歳以上30歳未満の女子がいる	→	☐	☐
同居している家族に、あなたを含めて18歳以上30歳未満の男子がいる	→	☐	☐
同居している家族に、あなたを含めて65歳以上の人がいる	→	☐	☐
同居のご家族は、あなたを含めて全員65歳以上である	→	☐	☐

一人暮らしである	→	●	●
持ち家に住んでいる	→	●	●
一戸建てに住んでいる	→	●	●
現在の地域に10年以上住んでいる	→	●	●
町内会・自治会（マンション管理組合を含む）に加入している	→	●	●
過去1年間に、あなたや同居家族が犯罪の被害にあったことがある	→	●	●
大学を卒業している（在学中を含む）	→	●	●

[必須]

Q7 あなたの情報環境などについておたずねします。

		あてはまる	あてはまらない
自分専用のパソコン（タブレットを含む）をもっている	→	●	●
家族共用のパソコンをもっている	→	●	●
スマートフォンをもっている	→	●	●
自宅に固定電話がある	→	●	●
テレビのニュースをほぼ毎日見ている	→	●	●
新聞を購読している	→	●	●
県や市町村の広報紙には目をとおしている	→	●	●
警察の広報紙には目をとおしている	→	●	●
twitterを利用している	→	●	●
フェイスブックを利用している	→	●	●
Instagramを利用している	→	●	●
LINEを利用している	→	●	●
よく読書する方である	→	●	●
ふだん、電車で通勤・通学している	→	●	●
ふだん、自動車を運転している	→	●	●

[必須]

Q8 以下のそれぞれの文章について、あなたはどのように思いますか。

		非常に そう思う	そう 思う	全く そう 思わない (いない)
私には困ったときにそばにいてくれる人がいる	→	●	●	●
私は喜びと悲しみを分かち合える人がいる	→	●	●	●
私の家族は本当に私を助けてくれる	→	●	●	●
必要な時に、私の家族は私の心の支えとなるような手を差し伸べてくれる	→	●	●	●
私には真の慰めの源となるような人がいる	→	●	●	●
私の友人たちは本当に私を助けてくれようとする	→	●	●	●
色々なことがうまくいかない時に、私は友人たちをあてにすることができる	→	●	●	●
私は家族と自分の問題について話し合うことができる	→	●	●	●
私には喜びと悲しみを分かちあえる友人がいる	→	●	●	●
私には私の気持ちについて何かと気づかってくれる人がいる	→	●	●	●
私の家族は私が何か決めるときに、喜んで助けてくれる	→	●	●	●
私は自分の問題について友人たちと話すことができる	→	●	●	●

[必須]

Q9 以下のそれぞれの意見について、あなたのご意見をおたずねします。

		あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらともいえない	どちらかという とあてはまらない	あてはまらない
この世の中では、がんばった人には、確実に報われるときがくる	→	●	●	●	●	●
この世の中では、悪いことをした人には、必ずその報いがおとずれる	→	●	●	●	●	●
この世の中では、誰がどのくらい努力したかと結果を出せるかどうかには、関係がない	→	●	●	●	●	●
この世の中では、上手くぬけがけする人は、まじめな人よりも格段に得できる	→	●	●	●	●	●
この世の中では、ずる賢く立ちまわる人は、不当なことをしても罰を回避できる	→	●	●	●	●	●
この世の中では、非道なことをした人の多くは、責任を問われていない	→	●	●	●	●	●
この世の中では、大きい利益を挙げている人の多くが、卑劣な方法を使っている	→	●	●	●	●	●
この世の中では、高い地位を得ている人の多くは、実力を伴っていない	→	●	●	●	●	●
この世の中では、立派な成果を出した人の多くは、正当に評価されていない	→	●	●	●	●	●
この世の中では、正しく生きている人の多くが、そうでない人よりも損している	→	●	●	●	●	●

[必須]

Q10 あなたご自身についておたずねします。

		非常にあてはまる	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	全くあてはまらない
自分が他人にどう思われているのか気になる	→	●	●	●	●	●
世間体など気にならない	→	●	●	●	●	●
人に会う時、どんなふうにふるまえば良いのか気になる	→	●	●	●	●	●
自分の発言を他人がどう受け取ったか気になる	→	●	●	●	●	●
人に見られていると、つかっこうをつけてしまう	→	●	●	●	●	●
自分の容姿を気にするほうだ	→	●	●	●	●	●
自分についてのうわさに関心がある	→	●	●	●	●	●
人前で何かする時、自分のしぐさや姿が気になる	→	●	●	●	●	●
他人からの評価を考えながら行動する	→	●	●	●	●	●
初対面の人に、自分の印象を悪くしないように気づかう	→	●	●	●	●	●
人の目に映る自分の姿に心を配る	→	●	●	●	●	●
私の暮らし向きは、人並み以上だと思う	→	●	●	●	●	●

令和3年度 社会調査実習報告書 第10号

発行：2022年3月31日

発行者：淑徳大学コミュニティ政策学部

〒260-8701

千葉県中央区大巖寺町200

TEL 043-265-7331

印刷：株式会社 正文社

